

18. 7. 26
内務省管理局

供覽 丙

情第一一五七號

昭和十八年七月五日

臺灣總督官房情報課長 小澤 木

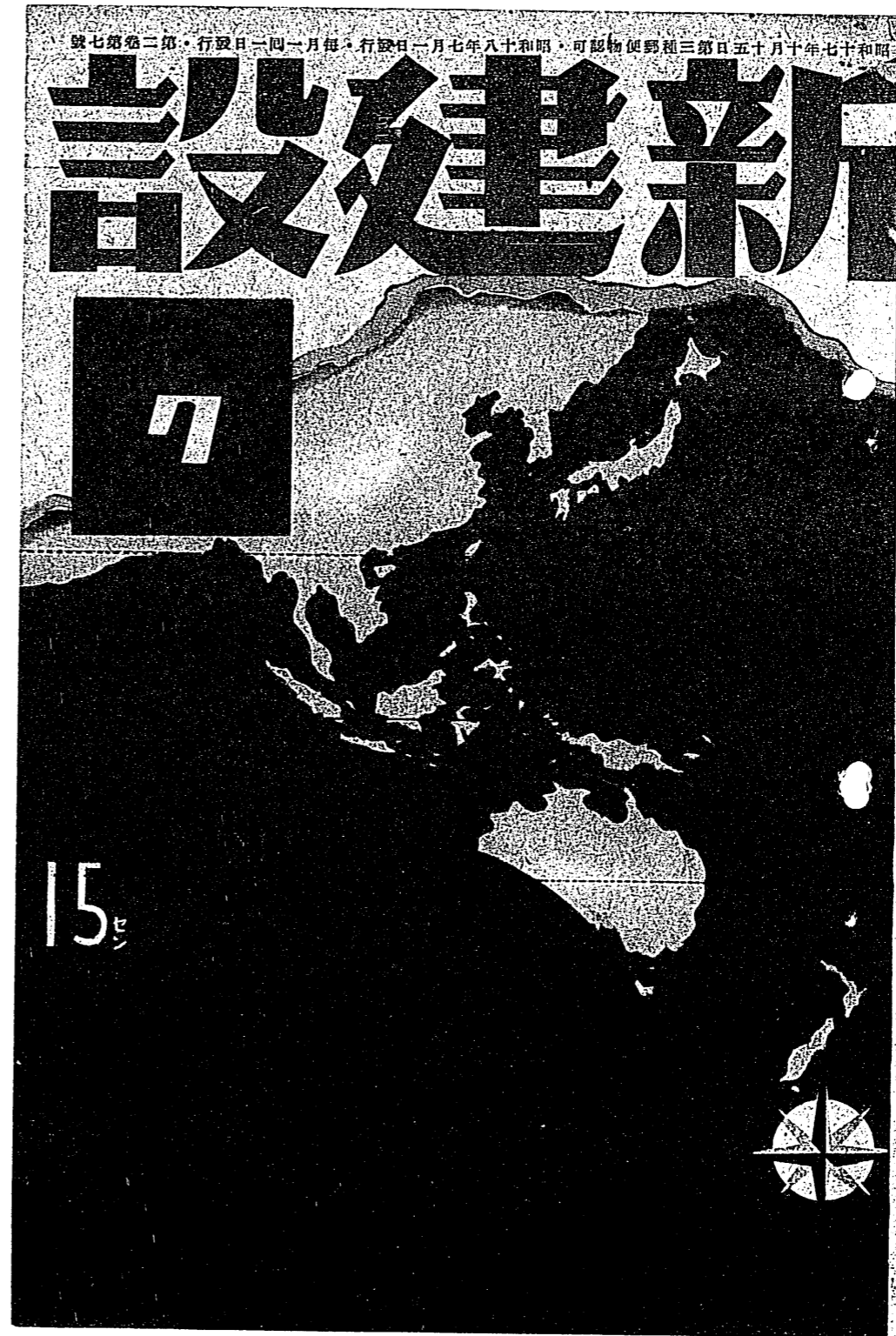
内務省
管理局長殿

「新建設」送付ノ件

皇民奉公會發行ニ係ル「新建設」七月號(五部)迄御參考
右及送付候也

管理局長了 監理課長 事務官 齋藤

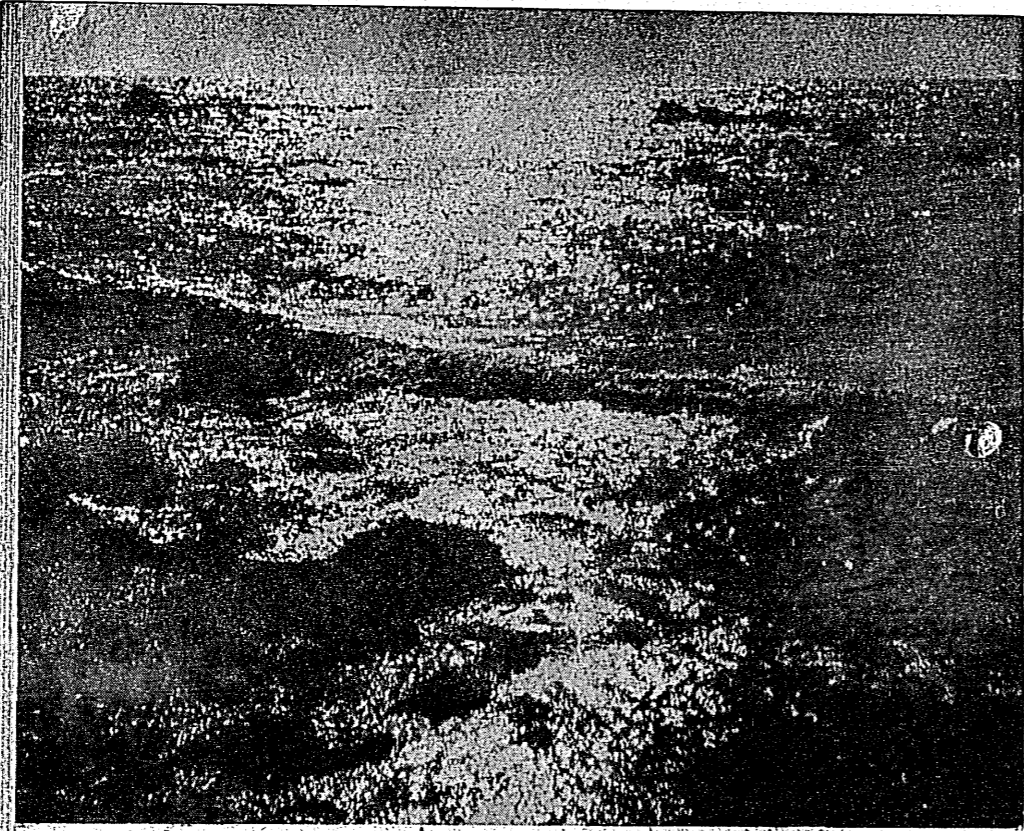
郎



REEL No. A-0509

0509

アジア歴史資料センター



海

弘安 藤 新・真 露

海

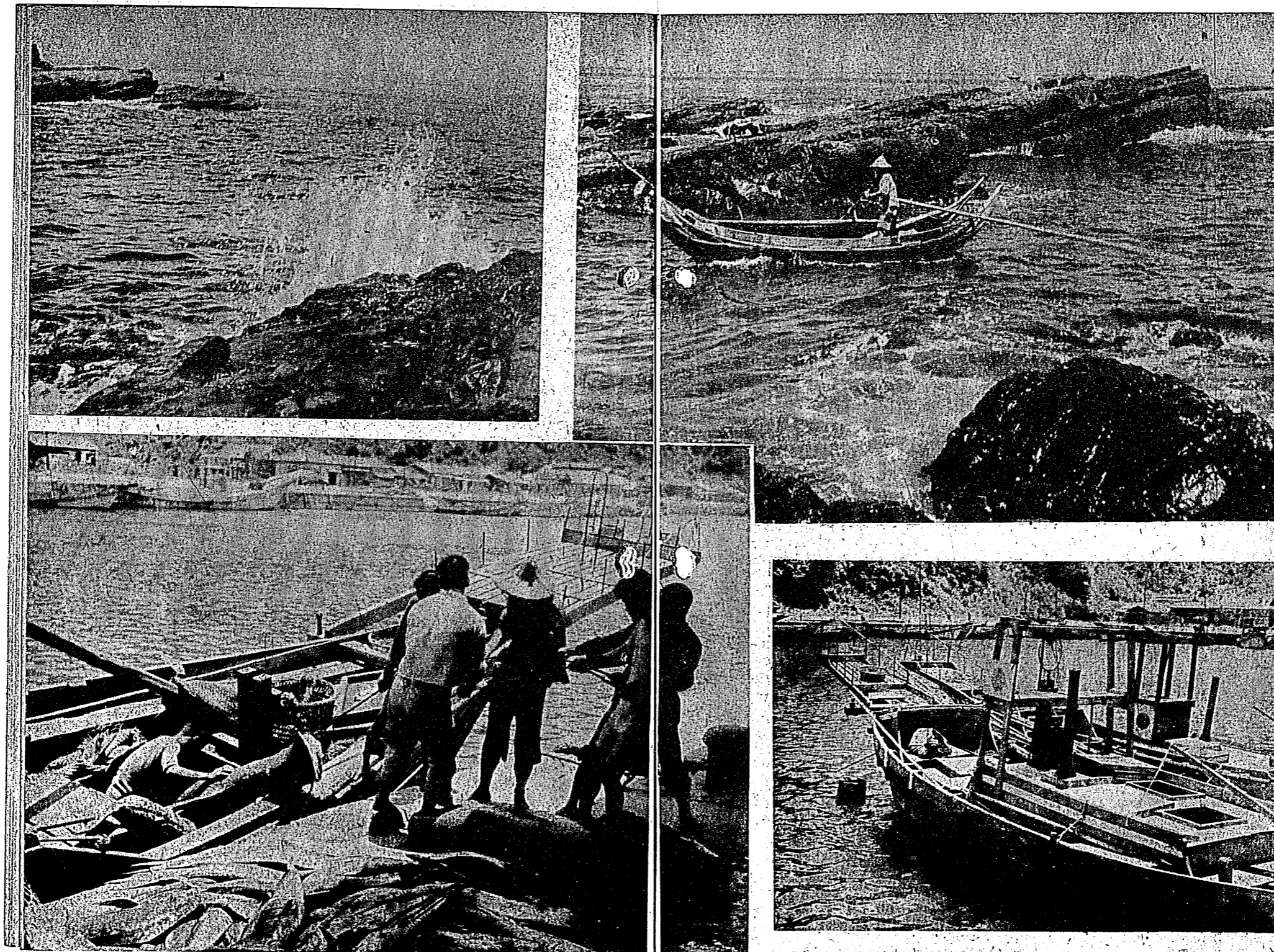
そこに將兵は水漬き、
かしこに幾多の自爆荒鷲は冥る。
ソロモンの勇士は赤道を越え、
アリユーンジャンの勇士も吹雪の海を渡つた。

戦

ひは海の彼方に決せられる、
今日も決戦、明日も決戦、連続の決戦
今日君白刃を携けて浴を越えなば、
明日吾れも銃劔を握つて海を渡らん。

英

靈に應ふ、續け海の彼方、
米英撃滅の戦ひの彼方、
英靈と進撃す米本土攻略の日まで!!



REEL No. A-0509

0506

アジア歴史資料センター

行か行か 海軍志願兵

決戦近づくと、起て

英のチャーチルは早くも長期戦は自國に不利だと悲鳴をあげ出し、敵アメリカの戦力も、今年を峠として、あとは下り坂になるであらうといふ観測は、絶対に間違ひない。ルーズベルト自身も此のことはよく心得てゐる。だから年内、大體にこの秋ごろを目ざして本格的な反撃を試み、一舉に戦ひを決しようとしてゐるのだ。敵はその目途で現に作戦を練り、戦路を整へてゐるやうだ。

× × ×

これに對し我方また、抜かりなく反撃陣形を強化し、然もこれを機会に徹底的に彼を叩きのめし、山本元帥やアッツ島の仇

臺灣での戦力増強は、軍需資材の増産を初めとし、其他では食糧の大増産が眞剣に要請されてゐる。主たる食糧と云へば米と甘藷である。吾等はこの増産に向つて、老

幼男女の別なく、時には児童、生徒、學生までも總立ちになつて、そのための勤勞に奉仕しなくてはならぬ。アメリカの學生だちが、航空兵として「ドンク」徴集されて前線に送り出されてゐることを思へば、寧ろチツとしては居られぬ筈である。

× × ×

太平洋を隔て、日米の兩雄並び立たず兩虎競ふて互に相搏たんとする凄愴なる光景は、確かに展開中の日米一大決戦の眞姿であらねばならぬ。神州日本の國民にして、この機、この秋に起たすして、果していづれの時にか起つべきものぞ。

いさ總立ち、いさ總進軍……唯、米英撃滅あるのみ。

新建設 目次(七月號)

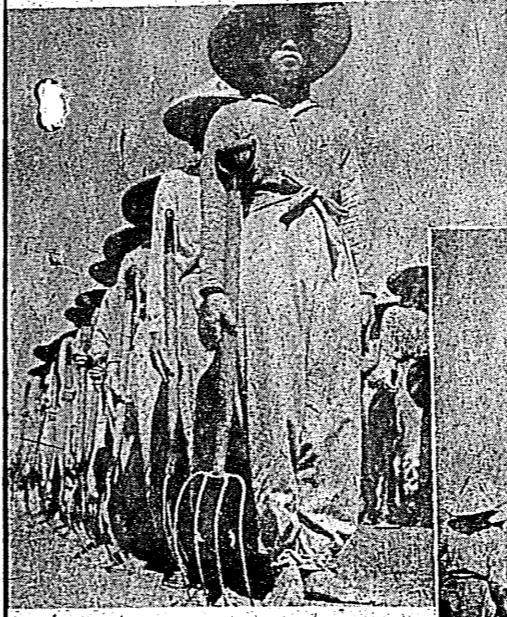
- 一 巻頭言
- 二 紙上座談會 決戦總進軍
- 三 海洋精神の誕生
- 四 贈詞七七記念日を迎へて
- 五 悲の標榜
- 六 小説青年の門
- 七 奉公運動地帯
- 八 部落運動會を觀て
- 九 古事記物語
- 十 今月の話題(大きな國色)
- 十一 看護助手の手記
- 十二 奉公退院(子持)
- 十三 新建設回覧板
- 十四 家庭の頁
- 十五 漫筆(愛國愛さん)
- 十六 漫筆(五等公川柳)
- 十七 表紙

集團鍊成の 若き農

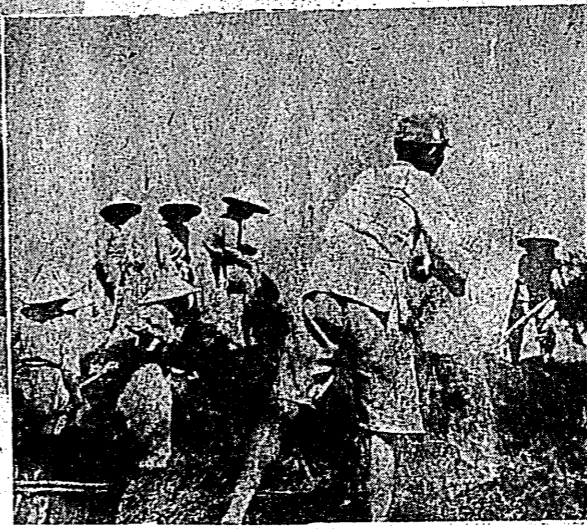


臺北州農會
農民訓練所

將來中堅として、また指導者としての若き農民を收容、集團鍊成のうちに、農耕の眞髓を積み、新しき農とし生み出す。



渡川平・眞宮
家・眞宮録登



支配し、生産の増強を阻害するもの無きにしもあらずであつた。それが今回の企業整備は戦力増強の爲積極的生産効率の増強に重点を置いてゐる點、著しい飛躍である。戦力増強と云ふ一つの大きな目的に統一されて来た。自分の營業が立ち行かないからと云つた企業は是非を云ふのでなく、國家が戦力を増強する爲に必要な統合企業整備と云ふ事になつてゐる。企業整備で度めさせられた者をどう唯はせるかと云ふ、さう云ふ事を考へる必要はない、實行が是非必要だから度めさせるのである。人も資材も皆必要なものに向ける、國家の意志行動の綜合計畫に基づいてやつて行かねばならぬ。

〔乙〕 今迄の利益中心、専ら自分を中心とした氣持を脱却するんだね。決戦は唯ふか唯はれるかの段階である。國民はよくその意味を呑み込まねばならぬと思ふ。殊に臺灣の現在の企業整備の動きを見て來ると企業合同に依る整備段階にも入つてゐない。積極的に自分分は國家の要請に應へるのだと云ふ、心から早く整備しなければいかんと云ふ、さう云つた心構へも薄く、早く整備して置かないと企業整備が強制發動されると自分等はどうかと云ふ、受身な弱さが自己意識に動いてゐるのではないかと考へる。

〔甲〕 轉廢業に對する補助金は六百圓ですか。

〔乙〕 内地では六百圓、その他組合などでは千圓以上になつてゐる。臺灣で計畫してゐるのは今迄の處では二百圓ですが、今度それを内地と同じく六百圓にしようとしてゐる。二百圓と云ふのは臺灣の生活水準から割り出されてゐるわけ

だ。それから南北二箇所に職業補導所を作り、新しい職場に向ふ者に對して強力な訓練をやると云ふ事になつてゐる。

それから、これは面白い現象なんだが、同じ臺灣に居て、此處で非常に人が足りないといふ人と、また有り餘つてゐると云ふ人がある。何れが正しいかと云ふことに立ち到れば、私は人が足りないといふのが真相で、人が餘つてゐると考へるのは未だ自由主義的な考へが残つてゐるからだと思ふ。現に吾々は臺北市を歩いても、随分元氣な者が道中からぶらぶら遊んでゐる。筋骨隆々たる車夫が非常に、もつたいない程多い。また中等教育を受けてゐるものが遊んでゐるのは、それは職業を選ばずからで、職山工場に行き、食糧増産に必要であつて、起用するとなれば、幾らあつても人手は

足りないのが眞實だと思ふ。〔丙〕 それは確かだ、僕もさう思ふ。

工場でも農村でも、これからの勞務は女子に期待される

〔甲〕 滿洲國のやうに要求するだけの人を國家權力で引張ると云ふ事は未だ出来ませんかね。

〔乙〕 昭和十八年度の國民動員計畫では、女子は強制的ではないが、女學校卒業者を一定期間職に就かせ、それから職場を女子でやる、書記程度の軽い仕事に丈夫な男子が勤務することを禁止し、女子に代へる。農村では男三分の二、女三分の一を残してゐるものをこれから半々に残す。それからこれも臺灣の婦人に知つて貰ひたいのだが、特殊學校、例へば花嫁學校と

〔丙〕 ドイツは「男は戦線へ、女は生産へ」と云ふわけに積極的な女子動員をやつてゐる。昨年度女子勞務者は男女勞務者の四割七分千七百萬人に達した。今年當りは女子が多くなつてゐるらしい。人口の少いギリスは十四歳から四十一歳までの女子徴用者五百五十萬人、その他カナダもさうだが六十萬以上の女子が國防軍に属してゐる。アメリカも徴用してゐる。

〔乙〕 職業觀、または勞務觀ですね。職業に對する差別觀、勤勞に對する蔑視觀、これを徹底的に改めなければいけないと思ふ。

工場で働かうが、農村で働かうが、何れも、陛下の爲に働く事であり、兵隊さんが戰場で働くのと同じ様な聖職であるといふ、非常に高い職業感、怠り、勤勞觀と云ふものを臺灣の青年に植ゑつけなければならぬ。

〔乙〕 内地では事務員、書記風な仕事に就くことを禁止しようといふのに、臺灣の男子青年は現に事務員になることを理想としてゐるのが多い。所謂綺麗な仕事、背廣を着る仕事を憧れてゐる。非常な立ち遅れ方だ。

〔甲〕 それは女子にも受へるからね。臺灣の女子もこれから軍需工場、農村で働く心構へを持つてゆかねばならぬ。

〔乙〕 大分改つて來たばかりか、頭の下様な立派な者が多くなつて來つてゐるか。要するに職業奉還の心構へだね。

〔丁〕 轉廢する人の云ふのに、待遇が悪いとか、きつとか云つてゐる向があるが、轉廢は利害のみにするのではないと思ふ。時局を認識し、職業に對する觀念、勤勞に對する考へ方を根本的に改めてゆくのが先づ第一だと思ふ。

〔戊〕 それはさうだ、一面また廣く一般の認識を改め、轉廢が積極的に我國の爲にするのだと云ふ、高い誇りを持ち得る様、周囲の空氣を醸成しなければならぬ。

〔己〕 さう、それに臺灣では轉廢、企業整備が必然の運命にあり、喫緊を要する現實の事態を認識して欲しい。配給部面も決戦下十分御奉公出来る様に、工業部門も一日も早く生産力増強に足並揃へなくてはならない。

〔乙〕 雜貨屋といふものが臺灣は多過ぎる。大いに

これから末端の小賣者の整備に入るのだが、小賣商は卸商と違つて百貨店である。石鹸、タワシ、鍋、茶碗、箸、種々な品物があつて單純に整備が出来ない。総合的に整備しなければならぬ。小賣商の配給機構といふ新調を見合はせ、その代金を貯蓄にふりむけるやうに強調してほしいとのことで、私にも講演を依頼して來ました。その節私は、色のあせた、しかも所々破れたあつた昔政府の國防服を着用して演壇に立つた。そして聴衆に向つて、この服の型は、編をあてて履装が施してあるから決戦型で式と云へば二宮尊徳の式である。服に縷のあるものは何れも恥づべきことではない、恥づべきは破れてもつぐるはず、汚れても洗はない不潔な服を着てゐることである。いやもつと恥づべきことは、この生きるか死ぬかの大競争下にあつて、尙見榮や虛榮心を脱しきれずに、徒らに外見のみを気にすることだ……と云ふ風なことを

ふものはあんまり少くなる。國民生活の不安を來すから、慎重にやらなくてはならないが、これはどうしてやらなければいけない。強權でやらなくてははいけない。希望を弄つても、共助金でぶらぶら遊んでゐるの話ししました。その後、部落でいろいろな集りがあつたが、あなたの御題目に大賛成です、私も決戦型、二宮式の服を着用することに致しました、と云つて來る者があつてくれました。

これは、去る六月十七日、始政記念日の佳き日に、皇民奉公會中央本部より産業職士として表彰せられた、高雄州東港郡萬丹庄の眞益家、李同益氏の感想談である。徒らに人に説くことは知つてゐるが、自らは飽食暖衣、酒殺を脱しきれない、所謂似非努力者が未だにあつた。地方の農村にあつて、眞摯敢闘してゐる姿に、吾等は深い感激を覺えたのである。



二宮式の決戦服

「古人は「言ふは易く、行ふは難し」と云つてをりますが、私にとつてはむしろ「言は難く、行ふは易し」が眞實である様な氣がする。人にかうせよとは云ひたくもなし、又それ程効果のあるものでもない。それよりもまづ自分で實踐して見せる。さうすれば大衆は不知不識のうちにつれて來るものである。この前も部落の各所で生活改善講演會が開かれ、特にこの際衣服の

では積極的整備にならない。轉廢棄させる者の質をよく見て計画的にする。

〔甲〕農村義務に行かう。臺灣の農家は五割何分だつたかね。内地との比率はどうか。

〔乙〕内地は國民の四割八分といふものがさうだがね。内容が、質が變つて来てをり、そのうち農業農家と云ふものが大分あつた。農家に四割八分の人口を占められると、商工業方面が足りないといふので、半農半商と云つた兼業農家が多かつた。それが農專門を八分減らして、四割でいいぢやないかと云ふ事になり、後の八分を工場方面に廻す。四割確保と云ふのはさう云ふ意味だと思ふ。

〔丙〕全島の農民は昭和十六年度統計で五割一分です。現在も餘り變らないだらう。

〔丁〕臺灣は非常に能率

が悪いと云ふではないか。

〔丁〕婦人は未だ十分に働かない。田舎に行つて見ると小さい小屋で白粉をベタベタぬつてゐるのが出て来る。内地の女は非常によく働くのだが。

〔戊〕女が働かないとすると實際に働く臺灣の農村は五割一分の半分、殆んど二割何分、後は米も作らず遊んでゐると見てよい。實にもつたない。

〔己〕能率が約半分である事は云迄もなからうが、生産増強と云ふ點から見ると、内地の農村に比較して少ない。五割以上にせよなければ内地と同じ能率が上がらないと思ふがね。内地が四割なら、臺灣が五割以上でなければ内地並の生産は上らないと思ふ。

〔庚〕年に二回作つて、内地の一回と合ふ位だ。生産の面からいけば、内地が

四割なら、こつちは八割の努力をかけて、恰度四割のものにとんでゐる。

〔戊〕臺灣の百姓は一期米を作るに、田圃に入るのが十日位だとのことだ。もう十日位入つて蟲の驅除、除草をやれば、二割五分位米の收穫が増えると思はれる。

〔己〕もつと農民に働いて貰ふこととそれと本人が働きますと云つて、農村自體に勤勞し得ない空氣があつてはいけません。妻は夫と一緒に田に入つて草を取り、星を飛いて歸ると云ふ處迄にならなければいけないと思ふ。さう云ふ空氣が出来なければ農村勤勞の實は果たない。此處にも奉公會が大いに働きかけてゆかねばならぬ處がある。

〔庚〕家族制度も考慮の餘地がある。内地では子供がをれば、お祖母さんが出て見る。嫁は田に出て働く」と云ふ事になるが、臺灣の

家族制度ではさうでない。

〔丙〕内地ではその子供もお祖母さん田に出てゐる。戦争なんだから要するに、足りる、足りない、それは戦争意志の強弱による。國民の忠誠心の如何にある

〔甲〕それだよ。政府の政策は五大産業の絶対増産そこに来てゐる。鐵鋼、石炭、糧食、飛行機、船舶この五大産業産業、それに觸れる前に國民生活の安定確保、衣料はどうか。

〔乙〕織維製品はこれから少くなり、決つた量の配給しか出来ない。必要な量と云つても普通の國民は極く僅かなものを配給されるよらない。酒等も殆んど一定して来る。衛生問題からまた勤勞者の爲の場合から

するふん考へなければならぬ。

〔丙〕勤勞者へ配給されるものが不十分な場合を考へる。

〔丁〕臺灣の農村は一體に持つてゐる着物の量が少い。百姓はつぎはぎの利かないもので着てゐる。

〔戊〕都會人が衣料を獻納するんだね。日本人は春夏秋冬の季節に應じ、複雑な衣生活から非常に退縮品が多い。獻納が、回収の手だ。

〔己〕織維製品も銅や鐵と同じ國家の必要物資軍需品とすれば、回収、獻納と云つても少しもをかしくないのだ。その位の認識と覺悟は持たねばならぬ。

〔甲〕政府は背水の陣を布いて一生懸命にやる。臨時議會に示した、今度は退つびきならぬ總力戦だと云ふこと、戦力増強に何物をも犠牲にしなければならぬ

と云ふこと、その趣旨を臺灣でも徹底させ、本當に立ち上らなければならぬ。

〔乙〕此の前の議會の東條總理大臣の答辯に、かう云ふ決戦下だから、政府は強権を以て國民を引き出すことが出来る。然し政府はそれをやらぬ。備後も國民の忠誠心に訴へて、國民の盛上る力に訴へると云つてをりますが、總理大臣の要請に國民がついてゆく様に國民が盛り上らなければならぬと思ふ。政府から強権の發動を待つ様な、だらだらした態度ではいけないと思ふ。

〔丙〕今の決戦下には一刻を争はなければならぬ。それが爲にたゞ單に忠誠心に頼つて行つては駄目だと思ふ。が其處は日本の良い處で、日本の國體から云つて強権をやりたくない。それに對して、吾々から云ふと國民は戦線はこつ

ちに来てゐるんだ。早く武裝をやらねばならぬと云ふ、その一人々々の盛上る、自強がなければならぬ。その時政府は皆にゆつくり、

短歌・俳句欄 新設

不敗の信念を燃え立つ決戦下臺灣の意氣を反影する短歌及び俳句を撰ぐ一般より募集し、九月より本誌に掲載することに。出題、軍人控衛、増産、隣組、常會等、その取材の如何を不問とし、胸にひそむ愛國のさけびを三十一文字、あるひは十七文字に託し、もつて奉公運動推進の心の圖たらしめて、ただきた。選者のうち隨正治氏は「あらたま」同人、山本幸江氏は「ゆかり」主宰、盧子門下ホトトギス派の俳人、兩氏ともに、本會より昭和十七年度経文屋賞を授けられた人である。

投稿規約

〔短歌〕△選者、隨正治氏△官製はがき一枚△三首録書△毎月一日(翌月送)に發表△送先、臺北市新公園内、皇民奉公會中央本部新設編輯部

〔俳句〕△選者、山本幸江氏△官製はがき一枚△五句録書△その他は短歌に同じ

てゐる、私個人の認識から云へば、政府が強権を以て、もう少し強くやつて頂きたいと思ふ。今迄日本の歴史に會てない危機を體驗

やつてゆく覺悟でなければならぬ。政府の云ふ通りすると云ふ處で、吾々は政府を信用して安心してゐるだらうが、強権の發動を早くやらねばならぬと思ふ。

〔甲〕女子の徴用動員をやらぬのは日本だけでずからね。日本の國の有難さで、さう無理な事をやらせないが、其處に國民が自覺め直ぐ立ち上らねばならぬ。さうでなければ日本人ではない。

〔乙〕地元の臺灣、具體的にどう云ふ御奉公が出来るか、それに移らう。

吾々は戦力増強に何を御奉公したか

〔甲〕吾々が臺灣島民として何を戦時下御奉公したかと云ふことを、常に反省しなければならぬ。かう云ふことも考へられる。臺灣を前衛基地、飛行基地と云

ふが、無人島だつて飛行基地の御奉公は出来る、米に於いては二期取れるからと云ふだけで御奉公してゐる様に思はれるが、甲當りその二期作を合せて、内地の一期作と云ふと、内地ではまだ完全な御奉公だとは思はれない。ある處で奉公壯年團の會で女を勞務者としてうんと働かせなければならぬと云つた處、臺灣の女は大いに働いてゐると云ふ。どんなに働いてゐると云ふと朝起きて飯炊きをするると云ふのだ。そんな事を云ふと戦争も驚かない。兎に角戦争だと云ふことを認識しないのだ。臺灣としての御奉公は戦時下何を御奉公したかと云ふこと、平時に較べて常に反省しなければいかん。そこでもつとピンと来る處で、男も女も食糧生産にも必要だが、もつと端的に軍需工場を造り、其處でバリバリと

働きたいのだ。
 (丁) 本島の青年は指先は器用で、細工も非常に上手い。重要工場で働いてもらふことはどうです。
 (甲) つれて行った例はないのか。
 (丙) それはある、ある工場で内地に本島青年を三十名程やつて養成し、高雄の工場に働いてゐる。全部が非常に技術が優秀です。特殊な精神訓練をやつた故であるが、非常に心掛りも良いし、大へん役に立つた。
 (丁) 東京の蒲田のある工場でも使つたが、正直で器用で、軍需工場方面でももつて来た。だつと評判である。もつとこちらで質の良いものを徴用して内地の必要な工場に連れて行くことは非常に良いことだと思ふ。
 (戊) 轉廢業の勢力を他に力をつける場合は、さう云つた人達を内地の農村にやつて補填し、臺灣に戻つて来るとなれば、非常に良いぢやないか。
 (丁) 飛行基地と云ふ話があつたが、臺灣でも飛行機を作ることには就てもつと真剣に考へてもらひたい。臺灣で組み立て、臺灣から飛んでゆくことになれば、はじめて航空基地の名實を備へる。南方から資源を運ぶのにも、内地に較べて船腹の節約にもなる。また軍需工場で働かせたいと云ふことであつたが、さうなれば二萬、三萬の人は直ぐ叫べる。私は常にそれを主張するが、然し新しい施設を臺灣で整備すると云ふことより、内地で整備補充するのが、矢張り早く危険が無い。さう云ふことで此處暫く臺灣は我慢して内地を援助するより他はない。唯私達がその實現に努め、着々運ばれてくることだけを申し上げる。それか

らアルミニウムを作るためのソーダ、マグネシウムさう云つた關係工業、綜合關係のものは五大産業に間接だが、何らかの形で積極的に御奉公出来る。飛行機を飛ばすための潤滑油、それを取る荒麻が臺灣では一番條件が良い。その一例である。兎に角將來は、極端に云へば、五大重要産業以外に仕事は出来んと云ふことになる。それが一日も早くさうなることが戦力増強の道であると思ふ。
 (乙) さう、それなんだ。決戦の段階では國民の一人一人が直接戦力増強の御奉公する。話は一寸別になるが、本島青年の南方進出の憧れ、これは宜しい。然し内地人もさうだが、今迄の商人の根性、今迄の工業者の根性をもつて行くことは斷然清算しなければい

をやらされてゐる氣持が兵隊さんと同じ氣持でなければならぬ。
航空撃滅戦、良いものを澤山早く作る。アメリカ恐るゝに足らず
 (甲) 話を變へて、ソロモンの鑄造り合ひは一年になる。明春の猛烈な航空戦だ。これを何と見るか、その邊から飛行機の話をお願いしたい。
 (丁) 私は關係があるだけで、専門家ではないが、まあアメリカの飛行機が、月に五千、一万と出来る間に聞いているが、日本の飛行機生産率だつてバカにできない。殊に最近は何となく、(甲) アメリカの生産力驚くに足らずと云ふのが實質的に根據があるのだね。
 (丁) さう、數でアメリカを恐れてゐるのはな

い。作戦を自由自在にやる。出来るだけ良いものを澤山早く作る、さう云ふ點から云つてだんく施設を増し、ても一對五、一對十と云ふ比率だ、數なんか少しも心配しない。性能も向ふより可成良いのだ。
 (戊) アメリカは請負です。からな。
 (庚) 総合的なものは出来ぬ。速力なら速力だけ、上昇力なら上昇力だけ、航続距離なら航続距離だけなのだ、それが請負会社の宣傳である。片輪に等しい。これでは戦力が出来ない。
 (乙) アメリカ本土爆撃機など、出来てゐる。佐藤軍務局長や安田航空總監の談が眞實であることは吾々が知つてゐる。
 (丙) 作戦上一定の損つた數、損つた性能と云ふことだ、實質的な性能それに

數は心配はない。唯乗る人、油、それが問題ではないか。
 (丁) 兎も、ブタノール等充分でない。飛行機が飛ばぬ。満足な宙返りも出来ない。そつちの方が大變だ。油、これは南の埋藏量は大量のものだ。唯オクタン價を高めること。要するに微妙な處に、常に総合的見地で判断して、不行届きの無い様にせんといかん。
 (乙) ソロモンは喰ひ合ひですね。
 (戊) 飛行機を早く作るこの技術、これが問題だらう。
 (丁) 増産のことで一番難しいことは、例へば飛行機、船を作るにしても補助的なこと、すした氣がつかない様なものがないと機械は動かない。油、石炭、鐵、輕金屬等総合的な考へでやらないといけない。飛行機を作るにしてもマグネシウム、ニッケル、タンダステ

ン色々なものが要る。その総合計畫の運営をうまくやらないといけない。發動機は倉庫に山の様にありますが、それが半製品である、と云ふのはそれに使ふ少量の鋼が無い、一番不自由な金屬に押へられてゐる。それで動かかない。
 (丙) 鋼貨回収、鋼貨回収で作ると云ふことだが、回収したものをどう云ふ風に持つて行つてゐるのか。
 (丁) 統制會社で内地に送つてゐるが、聯絡の悪いことだから何か知らないが不十分ぢやないかと思ふ。どうして島内で回収したものは島内で使ふと云ふさう云つた。
 (乙) それが非常にケチな考へ方と云ふのだ。鋼貨回収は自然に任せないで強制的にやるべきである。一枚の鋼貨が頭大の鑽石から取れる手間を考へる時、手取早く鋼貨回収と云ふ他な

い。
 (戊) 支那大陸で鋼貨回収はどうだらう。銀行に代へてやると云ふ。莫大な量ではないか。
 (乙) いや占領地では既にやつた。期待する程ではない。
 (戊) 阿里山に使ひ古したロープが澤山出て來てゐると云ふ。山地には駐在所跡に大分層があるだらう。官廳にも以外に層がある。もつと人を動員して徹底的に集めなければい

つて行かう。當面の問題は、今迄の話でも結論づけられるが、戦力増強の道で臺灣が最も手近に御奉公出来るのは、一にも食糧増産、二にも食糧増産、すべて此の一點にかゝつてゐる。
 (戊) 増産と云ふと奇抜な方法を考へた人が多いいが、僕はさう云ふことは無いと思ふ。農そのもの、特質にもよるが、たゞ實直に、俺まざる努力を以てする、それが増産の唯一の道である。後は指導員の熱心さである。さう考へてゐる。不急作物の統制とか、耕地の擴充にも努力してゐるが、それよりも増産の基本は俺くまでも單位收穫を増やすこと、それが臺灣に於いては第一である。
 (丙) 山崎農相も、平凡な地についた一途、それが食糧増産の方途だと云つてゐる。
 (庚) 單位増收に先づ必要條件は優良品種の育成です。つまり多收品種の育成です。種の良い苗をつくること、現在は薄播播床期前苗代を奨励してゐる。次に苗を本圃に移してからは、栽培技術の昂揚をはからねばならない。その要點はある一定の面積から出来るだけ多くの完全な根を取ることが必要です。それには種がさうつて結實し、粒の多いものにする、とが大切である。つまり收穫差を少なくすることです。これが米の收量を增加する重點です。この收穫差は、疎植をすくと多くなる。密植をすると少くなる。疎植にすると多くなる。正條植にすると少くなる。深植にすると多くなる。淺植にすると少くなる。老苗を使用すると多くなる。若苗を使用すると少くなる。従つて若苗、正條、淺植、密植をせよと云ふ事に

食糧増産、それが臺灣第一の御奉公だ

食糧増産、それが臺灣第一の御奉公だ

なる。近頃正條密植が叫ばれるのもそのため、これにより米の収量は二割以上異なる。これは全島九十パーセントまで徹底してゐるが、密植はまだ徹底でない。密植が深植かは抜いて見なければわからない。密植は表面から見てもわかる。密植のみ徹底しても他の若苗、正條、浅植が徹底では駄目だ。あくまで四拍子そろふこと、この細かい點に注意するのが増産の要訣で、技術は細かいのである。

今假りに一坪の水田に六十株の密植をする。一株から十本の穂が出る。一穂に六十粒つくると、一坪から三六〇〇粒取れることになる。機師の計算によれば一坪の穂の粒数は三五〇〇粒であるから、一坪から約一升の穂がとれることになる。従つて一町歩からは三十石以上と

れるわけで、玄米はその五割三分で約十六石とれる。もしもここで穂が一本ふれば一割の増収になり、一穂の粒数が六粒ふれば更に一割の増収で、つまり一穂ふえて六粒ふれば結局十九石二斗で二割の増収になるわけだ。僅かな努力でこれだけになるのですから、農民諸君は大いに工夫していただきたいと思ふ。

更に深く耕し、もし一尺深く耕せば又一割の増収で二十一石一斗になる。病蟲害を完全に防げば最少限度一割の増収が得られ、更に又除草の回数も多く、四回位まですればこれまで最少一割は増収になる。肥料を合理的にやれば一割ふえる。灌溉を合理的に、浅水にすれば五分の増収、適期に播種して、適期に収穫すれば一割増収。結局一町歩から玄米三十石位まではだれにでも作れるのである。それが現在の臺灣の平均は連年米で十五石内外、陸稻と在來種を入れると平均して十四石内外であるのは、何としても残念である。結局増産は細心の注意を払ひ、一株の穂数を、一穂の粒数を、一粒でも餘計にふやすことに盡きると思ふ。

〔丁〕私は臺灣の米を専ら兵隊さんなり、内地の産業戦士に出来る丈餘計やつて頂きたい。さうすると臺灣の食糧問題を改めて、今の甘藷と云ふものを主食物の處に昇格させる。バナナと云ふものを第一主食物として配給計畫を立てる。南瓜を農民に喰はせる。農民に米を餘り喰はせず、澤山作らせると同時に餘り喰はせないと云ふと思ふ。

〔甲〕供出米にどんく獎勵金をやる。さう云ふ風になるんではないか。もう少し諸なども主食物として

良いと云ふことを悟らせることだ。金生活のことをもつと婦人會で積極的によつて欲しい。さうして米を除くように行かねばならぬ。

〔乙〕内地では今度の應急處置として諸の増産を極力圖つてゐる。たゞ諸や南瓜は米に較べて主食品としての値段が高いだらう。

〔丙〕家庭の園藝を本格化させると云つてゐる。自給自足だ。ガダルカナル、ニューギニアで將兵が木の根、草の芽を喰つたことを考へれば、自給の方途はいくらでも眞剣に考へられる。

〔丁〕内地の農村では兵隊さんや産業戦士に充分に米の飯を喰つて貰ふ様に云ふわけで、自分達は米を食はず、諸玉蜀黍を主食にする。ことを申し合はせる處もある臺灣で戦力増強への唯一の御奉公が食糧増産だとすれば、その位の覺悟はあつても宜しい。

〔丙〕先程轉機業者を内地の農村にやつて技術を得させる話が出たが、逆に内地の篤農家を臺灣の各地にバラ撒いて指導させるのも良いと思ふ。更に角養の農業はまだ一畝開放である。汽車で豊原の邊りを見るとき、あそこさへ蟲にやられて白地になつてゐるのが多い。油が無い、鹽が無いと云つてゐるが、注意の仕方、手入の仕方では不精である様に思はれる。

〔戊〕さう、それで一割増収は確實である。

〔丙〕イギリスでは都會の女子を動員して、十萬人位、田舎にやつて天幕生活をさせて農村に加勢させてゐる。

〔丙〕今度の國民動員計畫では國民動員隊の常時組織化を取り上げてゐるね。

〔戊〕卵の時に取れば害

総力結集、凡てを擧げて戦力増強へ

蟲は除かれるのだ。女子供で出来る。國民學校や女學校の奉仕團はその邊を狙つて動かないと。

決戦標語 (入選發表)

- 〔重開〕 遊無我 無い所にも有るのが工夫
- 〔重開〕 廣野雄治 決戦は今日から家から持場からしつかり増産どつさり貯蓄
- 〔新選〕 王受恵 ヤンキーめ今に見てろ
- 〔北投〕 劉昌傳 搖がぬ職場、誠意で築け
- 〔北投〕 武藤紀郎 愉快に増産、笑つて貯蓄
- 〔新竹〕 王炳 決戦だ決戦だどこか二人前
- 〔臺北〕 蔡雲 雀も國語で忠々々
- 〔重開〕 黃東吳 セツセと働け、サツサと貯蓄
- 〔彰化〕 東川竹志 簡素に暮して感謝の貯蓄
- 〔臺北〕 劉鏡子 有る物で、間に合ふ物で勝算か
- 〔桃園〕 邱文雄 一億皆勤集がる増産
- 〔北平〕 董光邦秀 決戦だ増産だエイもう一畝
- 内容 決戦生活の總切替へを提議する標語、〇標語 毎月一日(翌月發)に發せ、〇用紙 官製はがきに發書、一枚三句まで、〇優秀作品を推選し、隨分の謝禮を呈す

〔甲〕外的條件はないか

〔丙〕思ひ切つて補助金をやる代りに名前を書いた債券をやる。五大産業に先に行き、戦後使へる標記畫を立てたらと思ふが、或る物を増産しなければならぬ時、何かにぶつかり思ふ

様に行かぬ時、盤路と云ふが、どうにもならない場合が相當ある。吾々産業人は損得がないが、中には心掛の悪いものがあつて、損をしたらどうにも積極的になれない。ですから私共から云ふと、思ひ切つて米にも獎勵金をやつて、その代りに出来たものの價格をしつかり抑へる。消費規正をもつと嚴格によつてゆかねばならぬ。でなければ單に物を増やす爲の獎勵金も何にもならない。徹底的な消費規正と云ふのは、例へば飲食店を制限する。藝者を皆廢する。衣食住關係に於いても物を少くする。そして消費規正を嚴格にすれば金を使ひたくても使ふ道がないと思ふ。そこまで行くとならば貯蓄、債券になつて國家に返つてゆく、インフレーションの悪影響がない。又増産の目的も達せられる。

それを思ひ切つてやらなければ今の盤路、障礙を克服することは困難だと思ふ。

〔丁〕さうです。それにあらゆる手續の簡易化です。百姓は一生懸命に米を作つてゐるのですから、むづかしい手續きなど省いて明瞭簡單によつて貰ひたい。一方で獎勵しながら何か事を運ぶに書類を出して印を押しての手續きが非常に煩はしいので。

〔乙〕そこなんだよ、

〔甲〕官廳が一番先に臺灣の陣頭指揮をやる。總督府が眞剣に陣頭指揮をやれば皆ついでいく。

〔丁〕それに仕事の重點主義を徹底して欲しいよ。重點々と云ふのが仲々重點になつてゐない、手續きどうの法規がどうのと云つてゐる時は時間と金を費して、戦力増強を阻害する以外は何物にもなつてゐない場合が多い。臺灣の特殊性から、總督あたりにも戦時行政特例法に似た権限を與へ、もつとビシ／＼やつてゆく、それが大切ではないかと思ふ。

〔乙〕敵は玄關まで来てゐると思ふのだ。女子通り決戦である。手近な處で吾々は武器を取る。即ち戦力増強だ。内輪でさ／＼してをられるだらうか。總督がかりで之れに當らねばならぬ。總力戦と云ふのは今此の一瞬々々にある。速かに國民總力を結集することだ。總力發揮、戦力増強を阻害する様な言動は絶対に排除して行かねばならぬ。吾々の目的は唯戦争だけである。戦争に勝つのみ。

〔甲〕どうも有難う。いい話を聞いた。では此の邊



七・七記念日を迎へて

【甲】暫く御無沙汰して
るうちにすっかり夏にな
りました。
【乙】うん、もう七月だ
夏といへば僕が、廣東の
市から〇里ばかりのある
部隊を訪ねたことがある。

頃だつたから、もう満四年
になるかな。
【甲】早いものですネ。
支那事變が勃發してから
もう七年にもなりますかネ。
【乙】全く、早いんだ
よ。滿洲事變から支那事變
支那事變から大東亞戦争
戦火はつきくと擴大、支
那事變からだけでも、もう
滿六年になつて、些つとも
疲れをみせて居ないんだ。
素晴らしい實力ぢやないか
しかもだ。除給給々。一
億一心鐵桶の國內體制を確
立して、さア、十年でも二
十年でも来い、と構へて居
るんだ。日露の兩役
でも、大體一年半くらゐで
すんで居る。歴史空前の大
戦争といはれた前歐洲大戦
でも滿四年に過ぎなかつた
これだけの大戦争を、滿洲
事變を加へると前後十餘年
も繼續しながら些かの疲勞
も厭氣分も出ないといふ
國は、日本を指して外にま
つあるまいと思ふネ。
【甲】全くですネ。
【乙】それといふのも、
勿論吾が國體の然らしめる
ところであるが、同時に又
戦争目的が常に不變である
といふこともその原因の一
つだ。滿洲事變といひ、支
那事變といひ、或ひは大東
亞戦争とその大きき、呼
稱は違つても戦争の本質そ
のものが變つてゐないとい
ふことだ。これは、往々看
過されることだが、大東大
事なことだから記憶して置
て貰ひたいネ。
【甲】といふ意味は。
【乙】つまり、滿洲事變
も支那事變もだ。事の起り
し直接の原因は、ほんにつ
まらぬことだから勃發する
るが、その原因の歴史的情
景をなすものは、米英兩國
がその帝國主義的植民地支
配の野望を支那に對して、
愈々露骨にして来たといふ
事にあるんだ。具體的に言

又、ルーズベルトの特使ハ
リアンの滿鐵買収計畫も議
つてゐるであらう。これは
一體何を意味するのか。こ
れは日露戦争がすむかすま
ない時の事だ。更に想つ
て可憐なる女王政府を欺瞞
恫喝し、遂に掠取に成功せ
るハワイ衰史をみよ。アキ
ナルド革命政府を使喚して
反西革命を勃發させ、最後
にはアキナルドを國外に放
逐、まゝまゝとヒリツピンを
強奪し去つた比島革命歴史
を讀むがよい。この一戰の
太平洋及びアジアに對する
米の策動は、一つの統一的
意思の下に働いてゐるこ
とを識らねばならん。悉く
これ支那侵略、東亞征服の
野望を達成するための伏線
ならぬはないのだ。九箇國
條約締結、即ち支那の門戸
開放に關するとりきめにせ
よ華府倫敦條約にせよ。す
べて、リクス・ロスを登場
せしむるための前提にすぎ

へば、猶太系英國人リクス・
ロスの支那幣制改革がさう
なんだ。當時、米英兩國は
日本に對しても支那の幣制
改革について協力を申込
んで来た。勿論吾國は之を
拒否した。といふのが、幣
制改革の前提として、已に
アメリカは莫大なる銀を支
那から買入れ、日本の参加
は名目だけ。その實は幣制
改革支那の經濟復興の名の
下に支那を經濟的に獨占支
配し、孫文の所謂亞細亞地
化せんとする下心が餘りに
明瞭だつたからだ。然るに
蔣介石は、その獨裁的地位
を強化し、財政的基礎を確
立するために、甘んじて支
那を米英兩國に賣つたので
ある。傳へられるところに
依ると、蔣は宋一族と共に
その獅子の分前にすら頂つ
たといふ。日本が驟然、支
那保護のため、裏切り者蔣
府の軍を起さざるを得な
かつた理由である。

【甲】でも滿洲事變はそ
の前に起つてゐますネ。リ
ットン報告書等をもつても
支那の完成獨立のために
幣制を改革することが第一
條件だ、といふ意味のこと
を述べてゐるぢやありませんか。
【乙】そこだよ。そこが
米英のもつとも狡猾なる術
だよ。凡そ、歴史的事象は
ただその一つの断面のみを
みて、之を偶然的なものと
してゐてはならん。歴史的
全體的關係に於て把握しな
いと、とんでもない間違ひ
を起すものだ。例へばリ
クス・ロスの幣制改革でもだ。
それは、一つのあらはれに
過ぎないのであつて、事が
そこまで運ぶには實に用意
周到なる米英の策謀がある
ことを識らねばならん。
君は故セオドル・ルーズ
ベルトが「世界の運命は太
平洋に於て決す」といつた
言葉覚えてゐるだらう。

南方宗教事情と
その諸問題

本書は文部省主催「南方宗教講
座」に於ける諸講演を輯録加筆
せるもので、文部省の厚意によ
り編纂刊行することになつたも
のである。A五三〇頁、四八〇頁、二五三頁

執筆者一 文部省阿原謙蔵 國民精神文
化研究所長伊東延吉 東京帝大教授板
澤武雄 東京帝大講師山本快龍 文學
博士長井眞琴 立正大學教授木村日紀
日本基督教青年會同盟總理事齊藤謙一
回教團研究所長大久保幸次 東京帝大
教授文學博士宇野圓空

聖戰母心

小坂和雄 著
四一六〇頁

生活の新科學

藤野野矢 著
四一六〇頁

日本の滑空飛行

清水六之助 著
四一六〇頁

東京開成館
東京・小石川
電話三五三三番

なかつたんだ。
 (甲) 深謀遠慮です。顔つきをよめるものだ。だが日本は夙にその野心を看破して来た。だから支那事變といつても、交戦の直接対象とするものは支那(蔣政権)であつたが、實質的には支那を通じてその背後勢力たる米英と戦つてゐることを心あるものは皆識つてゐたんだ。帝國政府がその戦争目的を明確にするため、敵は支那に非ず、又支那國民にも非ず、蔣介石政府なりと聲明したのも蓋し、この機微に觸れた表現の仕方であつた。ただ、當時の客觀的情勢では、支那と蔣政権を別々なものとして考へることが觀念的に國民の一般常識にヒツタリ來なかつた儘がある。往々戦争目的が明確を缺くが如く印象された所以だ。
 (甲) 思ひ當るところが

ありますよ。でも、大東亞戦後、その戦争目的がはつきりました。
 (乙) うん。昭和十六年十一月八日。これは歴史的名日だつた。あの息をはずんだ歴史のアナウンスを聞いた時、瞬間支那事變でモヤモヤしてゐた頭腦の中が一ベンにすうツとしたネ。敵の姿が、はつきり銀幕に映し出されたからだ。そのかはり、重慶側は逆に大狼狽さ。それまで、米英を相手にまさか騒起まいと多寡を括つた日本が、堂々太平洋を横断してハワイに米太平洋艦隊主力を屠り、西南太平洋に空海陸一體、水も漏さぬ立派な作戦を展開したんだからネ。
 (甲) 然し、それよりも尙ほ驚いたのは國民政府の参戦、對米英宣戦布告ぢやないでせうか。
 (乙) さうだ。同時に帝國政府が機を外さず、在支

塚越正光選評

働いて貯めて嬉しい大戦果
 (解) 大戦果の異道ほど努力戦を戦ひ抜く私達の感激を助けるが、それではない。殊にあがらせるものはない。殊に戦力増強の一点に集中して、戦場を固め、野戦に固む人々にとつては、この大戦果は一層切實であらう。そして「撃ちて止まむ」の念は火を燃ゆるであらう(句主、茨北市、劉昌)
 (解) 自由主義や個人主義が華かだつた頃には、この「ねばならぬ」ことや「べからず」が多いことを突つた私達でもあつた。が決戦下の今日、「ねばならぬ」ことがどんなに多からうと不平を言ふものは一人もない。そしてそれを體當りで突破、實踐してゆくところに戦國の強さが見られる(句主、淡木、高山泰吉)
 (解) 海軍特別志願兵制度實施決定の報こそ、本島青年の血を湧かせるものである。その

といふよりは孫文以來、支那の外交政策の基調だつたんだ。有名な孫文遺囑の中に「革命未だ就らず」とあるのもその意味であり、蔣介石もその一黨も、裏面の事はいざしらず、表面の二つの題目だけでいまいで民衆を指導して来たのだから、その二つとも蔣政権がその敵とする日本によつて堂々實行せられた。とするは蔣は全く立つ瀬を失つて了ふことになるんだ。
 (甲) 重慶の戦力低下、將領の相つぐ離反、國民政府への参加等の理由もそこにある譯ですネ。
 (乙) さうだ。勿論その他にも種々原因はあらう。重慶の孤立、奥地、西南開發計畫の崩壊、悪徳インフレーションの増大、ブルジョア階級の切斷による軍需物資の極端な不足、國共對立等もその一つの原因であらうが、何んといつても抗戦理論及び戦

争目的喪失が、抗戦陣營に與へた精神的打撃は深刻だ。吳文化將軍の國民政府参加以來、葉子桓中將の同じく國民政府への参加まで、蔣系將官の來り投するもの二十餘名。而もそれらの將軍連は、數千、あるひは數萬の部下と、多年培つた地盤と共に國民政府傘下へ馳せ参するものであるから國民政府の戦力は飛躍的に増大するばかりだ。
 (甲) 重慶が、しきりに「今年の冬が最大の危機だ」と米、英に援助強化を泣訴してゐる様ですが、原因は軍需物資の不足だけでなくさういふ意味での精神的危機も含めて言つてゐるんでせうね。
 (乙) 多分さうだと思ふネ。殊に重慶を離脱するのはいひとり蔣系將領だけではない。財界人も相當ある。
 (甲) 南洋華僑の巨額胡文虎も香港で總督部に協力

してゐるといふではないですか。
 (乙) 胡文虎もだが、問題は上海財界人の覺醒だよ。何しろ、上海には支那の民族資本だけでも四十何億かの遊資がダブつてゐるんだ。一面それが上海のインフレの原因にもなつてゐるんだが、もしこの四十何億かの民族遊資が、國民政府の建設的な事業に投資されることになると、それこそ十人や二十人の將領の離脱よりも、もつと戦力を發揮することになる。ただ、こゝに注意しなければならぬことは、重慶が抗戦陣營からの脱落的傾向を濃厚にするほど米、英の對重慶援助が積極化するといふことだ。蔣介石としては、米英に對する同情にもなるし、今後機會ある毎に脱落的傾向を強調し、一臺の飛行機でも多く送つて貰ふやうに努めるで

要項へ未だ發表されないのに、既に軍庄志願兵もとより、擧部志願の熱意を示してゐる。本島青年間にこの句が現實するのには違ひない。いや軍屬としてなら誇りに實現してゐるものもある。(句主、茨北市、吉田つや子)
 (解) 國同士の御聖旨は、本島青年をして榮光輝たる軍旗の下に馳せ参する光榮を與へて下さつたのである。本島青年たるものは、感涙に燃えて無敵海軍の一員たるべく熱血の志願兵として、擧部に懸へ奉らねばならない秋である。「ああ島民の征く處」を忘れぬ。(句主、茨北市、柳の芽)
 (解) 吾もまた南の空や北の島
 (解) 現定投稿「願はば設計す、奉公運動に關する一切の感想批評實踐等何なりと七字化されし、用紙官製は一枚、一枚がはつきりする。も少しで仕事がつきりつく時など、懇から願ひて呉れる夕陽にそのまま沈まず居て呉れと頼み、宛。

秋火は心の中で静解した。それから、口には出さなかつたが、心の聲はかうも云ひかけた。

「本島人の弱點から、君はやはり救はれてゐなかつたんだ。戦争に征く資格がわれわれに與へられてゐたのなら、君だつてまさか、倉い煙燭の火を自分の息で吹き消すやうな勿體ないことはしなかつたらう。」

江秋は覺のうへに端坐して、ちつと腕を組んでゐた。學生服が體にびつたりと着て窮屈さうだつた。肩のあたりががちりちりして、運動家を思はせた。中學校から高等學校まで、彼はつと柔道をやつてゐたのだ。肩をそびやかし氣味に端然と坐つた姿には、やはり武道で鍛へた氣骨が自づと出てる。

それにしても、まだ涙一滴こぼさないのは、いつたといふわけでもない。寢床を氣取つてゐるなんて、香氣なこともちやもらんないのだ。實際に、大して哀しくないからなのだ。世の中のあらゆる悲劇よりも哀しい現實でなくてはならないはずなのに。……アパートでは早くもこの権事が知れ渡つたものと見え、廊

下を走る足音や噂し合ふ聲々が聞えて来た。秋火にはそれさへ、根も葉もないことに空騒ぎをしてゐるやうにしか思はれなかつた。

だから、やがて検屍係がやつて来て、林英茂を裸にし、眼を検査したり、頭に觸つたり、手足の屍斑を調べたりする様子を傍からながめてゐると、秋火は何だか生きてゐる人間の體が玩ばれ侮辱されてゐるやうな氣持で堪へられなかつた。

検屍の役人は調べを帳面にノートしてゐたが、ふと、

「ひよつとしたら、他殺かな？」と不審さうに獨りごちた。秋火はこの意外な言葉に驚いて躊躇返しに「他殺ですつて。ほんとですか、それは？」

「いや、さうだといふわけぢやないが、多少その疑ひがないでもない。頭をやられてゐる。」

さう云つて検屍係は、死人の亂れた髪毛のなかに指をいれながら、「さうだ、ここのよ。ぶよぶよしてゐるだらう。君觸つてみるか？」

「いやです！」

「怖いかな？」

「怖いことなんかありませんよ。しかし……」

秋火は検屍の人の無神経にカッと腹が立つた。哀しみはあまりに茫漠として大きく、まだ身近くにひきよせ兼ねてゐるほどのものに、恐怖などあつて堪へるものか。

しかし、他殺かもしれないといふ新たな疑ひは……だが、その意外な驚きさへ、一瞬の弱となつて秋火の頭を掠めたにすぎない。そんなことはどうだつて構ひはしない。自分でやらうと、他人にやられようと、死はけつてよく一つなのだ。

検屍係が戻つてから二時間ほど経つた時、どなたかお見えになりましたよ」と扉の外から報らされた。

「たよ」と扉を開き、秋火は部屋を出て二階の階段を降りていつた。彼が電報を打つて報らせたのは、林春和、陳柏舟、吳文良、周金榮等の學生と、自分の姉の雪柳、それに故人の大学の西洋史學科の主任教授矢崎千里博士、以上の人々だつた。

そのうち、いの一に駆けつけて来たのは、いつた誰であらうか。午後からつと死んだ人の側になつた秋火は、さすがに人戀しい氣持にな

つてゐた。誰でもいいから、早く會ひたかつた。

ところが、階段を駆けおりて玄関へいくと、そこに立つてゐるのは、全然豫期しない人だつた。

「君来たの？ 君はどうして……」

徐氏彩蓮が——何の報せもしなかつたはずのこの女が、誰より先きにやつて来ようなどとは、秋火はゆめにも考へてゐなかつた。たぶん、この自分と同じやうに、偶然訪ねて来たものであらう。……とすると、この女はまだに林英茂のもとへしげしげと出入してゐたのであらうと、例のいやな疑念が再び濃い雲のやうに秋火の心に擴がった。

何か云ひかけた彩蓮の言葉は秋火はてんで耳に入らず、いきなりおつ被せるやうに云つた。

「駄目だ、もう駄目だよ。いくら君がおしかけて来たつて、もう會へるもんか。彼奴はもう遠くへいつてしまつたんだ。」

こんな遠慮しの云ひ方では、突然に何のことか分るまいと思つたところ、彩蓮は英茂の死んだことをすでに知つてゐる口振りのため、秋火は二度びつくりした。

「どうしてまた、そんなに急に……いつから病氣でしたの？」

「どうして君知つてるんだ。どうしてこへ来たんだ？」

「電報みてびつくりして来たのよ。ちよとと私姉さんとこにゐるものだから……」

なるほどさうだつたのか。彩蓮は林春和の細君、錦紋の妹である。林春和のところへ電報を打つたのだから、その家に來合せてゐれば、當然、義妹彩蓮にも知れるわけである。さういふ推理がてんで出来なかつたほど、秋火はやはり上すつてゐたのであらう。

「義兄さんさうと後から來るわ。だけど、義兄さんだつて知らないはずよ、林さんが病氣だつたことなんか……」

「病氣ぢやない。林の奴とどうやうなやつたんだ？」

「はア？」

「誰何のことか解しかねたやうに



彩蓮は異常な不安を湛へた目を大きく開いて、まづすぐに秋火の顔をみだ。自分で自分をやつつけたんだ。分

「彩蓮は異常な不安を湛へた目を大きく開いて、まづすぐに秋火の顔をみだ。自分で自分をやつつけたんだ。分

間の表情を見逃してはならないとでもいふやうに、秋火は慌てて相手を直した。一瞬バツと開いた圓ら目は、しきりにしじは

「彩蓮は異常な不安を湛へた目を大きく開いて、まづすぐに秋火の顔をみだ。自分で自分をやつつけたんだ。分

いふやうな古典的な規格にはぜんぜん合つてゐない。それでも美人として、自動車の型同様、現代人は流線型を好むからであらう。さういふ一風變つた顔もつて來て、ラダの毛のやうなふわりとしたポーゾアを着、流行の電髪にヴェールのついた縁無帽子を被つてゐる恰好は、誰も臺灣の娘とは思はないどころか、外國から歸つて來た二世の女といつた感じだつた。

それらは、しかし、いつもの彩蓮の顔と恰好の持前にすぎない。誰だつてこんな恐ろしい意外な事實を知らされたら、衝撃を受けるのは當り前だ。彩蓮の表情はそのためゆがみ硬張つてゐるだけだつた。それ以外に秋火は、彼女の表情にも素振りにもとくべつこれと思はれる怪しい節はみとめることが出来なかつた。となると、かへつて疑念は深まり、この女良心に賣られるので、それを出来るだけ表に出すまいと務めて要心してゐる様子にとれて仕方がなかつた。

「まあ怖い。どうしてあの人そんなことしたんですの。どういふ譯で……」

「君に訊きたいと思つてたんだ、その禱を」

「私が……どうして？ 私は知らない。知つて居るはずはないぢやないのなせ江さんそんなこと云ふの」

「そのことで、ちよつと君に話したいことがあるんだ。こゝちやまづいから、ちよつと表へ出てくれないか」

「さう云つて秋火は彩蓮をアパートの外へ連れていつた。そして、表のからたちの生垣のそばに立停つて彩蓮に云つた。

「徐さん、僕君にお願ひがあるんだが……」

「何に、いつたい」

「お願ひすると同時に命令でもあるんだ」

「怖いみたいね。もうこれ以上強引の止して。私氣が變になりさうよ」

「もし僕の想像が間違つてゐたらあやまる。しかし、もし當つてゐたら……つまり彼の自殺の原因がもし君との關係ならば……」

「まさか」

「君のほうでは何とも思つてゐなかつた場合でも、意外に相手の心を傷けてゐるといふこともある……」

「するぶん失禮ね。そんなでたらめな邪推をされちや、私感だわ」

「だから、間違つてたらあやまるよ。云つて居るぢやないか。しかし、ひところ君はよくこゝへ來てゐるから……」

「それで疑つてゐるのね」

「手紙も寄こしてゐる」

「讀んだの」

「讀まない」

「あの人が私のために死ぬなんて、そんなことあるはずないわ。絶対にいわ」

「それならいゝんだ。あゝいふ死に方といふものは、とかく世間から疑ひの目でみられる。當然女との關係に結びつけて……だから、もしも君との間に何かがあつたらしたら、ぜひ内密にしておいてもらひたいと思つたんだから、林英茂の爲めにね。それは君の爲めでもあるし、」

「あんたまだ私を信じないやうね」

「信じないよ。しかし、忘れないでおいてもらひたいんだ。君が軽々しく口を滑らすことは、事件をこんがらからせることになる。君もそのために困つた破目になるだらうといふことをね」

彩蓮は、ちよつと呆つ氣にとられ

毛髪
健康美の
整髪料

素養米の髪毛
油香本目

号津石・阪大

た。人の云ふことにはてんで耳を借さず、たゞ自分の思ふことだけをすばすば云ふ不遠慮さと獨斷。なんて傲慢な不遜な荒つぽい男だらうと、彩蓮はむしうに腹立しかつたが、それでも何かしら眞直ぐで力強いものに壓倒されたやうに、すたすたとアパートの入口へ戻つていく秋火の後から、のこく従いていくよりはかはなかつた。

「上へあがりなさいよ」

「アパートの玄関で秋火が促すと、彩蓮は若くなつて、激しく首を振つた。

「いゝえ、私怖い」

「なんだい。それぢや君は何しにこへ驅けつけて來たんだ」

「でも、そんないやな死に方だなんて、ちつとも……」

「意氣地がないなあ。どつちにしたつて、同じこぢやないか。僕は半からすつと一人で彼のそばにゐた」

彩蓮はとても信じられないといつたふうに呆れた顔で秋火をみたが、すぐ、また恐怖におびえて首を振つた。

「秋火は驚むやうにちやつと突つて「ぢや、こゝの應接間にあがつて待

つてたまへ。後で警察の取調べがあるはずなんだ。君も一應調べられるかもしれないからね」

さう云つて、二階の階段のほうへ行きかけた秋火はふと思ひ出したやうに

「済まないが、外へいつてお申ひの品を買つて来てくれなうか。蠟燭に線香に、それに燻香のお香と、それぐらゐでいゝだらう。頼んだぜ」

秋火の態度は事務的といふよりもへんに恬淡とした感じで、いままであんなに自分に疑念を抱き、蔑みと怒りを持つてゐた男とは思へぬ。さつぱりとした様子で、彩蓮には不思議だつた。おそらくいま物を頼んだ時の秋火にとつては、相手が徐氏彩蓮であらうとなからうと、どうでも構はないのであらう。

「なんていやな男だらう。男達にちやほやされることに慣れてゐる彩蓮は、ひどく自尊心を傷けられた。それに、林英茂とは無二の親友だといふが、泣いた様子もなくたいして哀しげな顔もしてゐないところをみると、心の底によほど冷徹なところのある人間らしい。だから、さういふ並みならぬ際ですら、取亂さずにつまみかきと物がやれるのだらう。さう思ひながら彩蓮は階段の上り口のところで、アパートの管理人に應答してゐる秋火の物乞ひしない態度を、ふと感嘆しながらみてるた。

「管理人は眉をひそめて、あからさまに不満のいろを現しながら秋火に訴へた。

「どうしてまたそんなことをしたんですかね。困りますね、全く」

「お願ひして済みません」

「なにしろ、お答さん相手の面賣です。わるい評判がたつたら、借り手がありません。なんとか早く始末をしてもらはなくてはならぬよ。今夜のうちにほかへ移してもらへませんか」

「今夜……そりや、あんた無理ですよ。無理でないとしても、無情ぢやないかな。林はこゝのアパートに、それも一つ部屋に、三年越しご厄介になつたんですからね。あと一晩ぐらゐ泊めてやるのは功德といふもんですよ」

皮肉まじりにさう云ひ捨て、秋

火はすたすたと階段をのほつていつた。

秋火は不愉快だつた。悔みの言葉一つはす、ただぶつと不平を云ふアパートの管理人の薄情と非常識に腹が立つた。と同時に、さういふ冷たい扱ひを受けなければならぬやうな死に方が情けなかつた。たとへ死ぬにしても、病氣で壽命で逝くのならば、肉心が心を盡して看とつてくれるし、親しい友が手を握つたり、秋火の言葉を交したりもする。それなのに、この男いつたといふいふ重見でこんな馬鹿なまねをしたのだらう。海を越えた遠い異郷で、誰にも斷りなしに、自分勝手に花吹雪青春を摘みとつたこの男は……

遠い臺灣にゐる親達を知つたらどんなに嘆くことだらう。いや、もう電報も着いた時分だ。どんなに仰天してゐることか。後にも先きにもたつた一人しかない男の子なのだ。老いた両親はこの息子のほかに何の望みも愉しみもないのだ。彼の父林作人は、一時代前農民運動や文化運動に首を突こんで、相當に活躍したものであつたが、時代の推移とともに自由思想の花々が凋むに従つて、彼

結核の療治

参考資料

大徳乃道健康相談部

奉公運動現地報告

厳に戒むべし

奉公運動の抽象化

第三年の諸問題

皇民奉公運動の第三年目を迎へ、齋藤本部長は全島各地方の第一線に於ける、運動状況を視察するとともに、戦力増強の一途を邁進する奉公職士を激励、六月八日新竹州を最後に、一先づ西部諸州を視察つたので九日本誌は行を共にした各新聞記者諸氏を招き、その感想及び総合批評を求めた。

本部長は「實は年度の査察は中央本部の計畫を以て来たのだが、地方一線の方々の熱烈な御奉公振りを拜見しては、なせ自分から計畫して進んで出て来なかつたらうと面目ない様な又申し譯ない様な気がします」と遺憾したことが、これでも地方の奉公運動の熱気が、如何に本部長を感動させたかを知る事ができる。

○………全般的に指導方針が抽象的である。その地方々々に即しつと具體

角度から看取される。結局これはすべてが實踐を根柢とすることを云ふのであり。新體制といひ、翼賛運動といふも、その理念をどうのうのかと云ふことより、國民はどうすればよいかと云ふ具體的なことを欲してゐるのであるから、指導者の信念と熱意を以て、その場その場で爲さねばならぬ具體的なものを明確に示してやるべきである。奉公運動に於ける地方の有力者は知識人が多く、金と暇の餘裕ある此の人達に積極性の無い恨みは、理念追求を先とするからではないか。奉公運動の良き實を結ばせるのは萬事が實踐にある。更に指導者としての市

街庄の役人が奉公運動を机上に展開させること、その形式化のために指導方針が動もすれば抽象的になる嫌ひがある。これは厳に戒むべきことであらう。結局最も實踐力を持つ者は青年であることを常に念頭におき、これを強力に把握すると共に、民衆の直接指導者として練成しなければならぬ。

○………官吏としての立場と、奉公職員としての立場の區別を明らかにし、また民間人ももつと起用しなければいけない。

現在民間人をどの程度起用するかは慎重を要する問題であらう。官僚が奉公運動の指導者となることは、運動を形式化し、指導方針を抽象化させることは前述の通り考へられさうなことである。然し盛上る力と云つても、それは最初に役所で一應の形を作つてやらねば困難な場合が多い。正しい形を作つてやり、然る後盛上る力が示されるものと思はれる。そこで官吏としての態度如何といふことであるが、例へば郡守としての立場と、支會長としての立場を厳に使い分けなければならぬ。奉公運動に對して行政官としての権威で臨んではならない。尙くまでも國民運動の先達たる支會長としての立場から出て欲しい。これは形の上からだけ見た權にも聞えるが、官服に手袋を穿めて本部長を迎へた郡と、地下足袋草鞋がかり袴脚絆で迎へた郡との間には、奉公運動の熱意に於いても何か違つてゐる様に感じられる。大衆は郡守が支會長としての熱と意氣で泥まみれの地下足袋姿で陣頭指揮をなし、激勵してくれれば、そこに意氣込みといふものも自ら造つてくるのである。奉公運動が六百萬國民の

盛上る力に於いて展開されたことは、會々の國民精神動員運動や、皇民化運動に較べて、目覚ましい成功を見た原因である。その意味で今後民間人をどしどし起用することが必要であらう。

現在支部支會、分會など地方の奉公會では官吏から民間人に切り換へる時期が考へられる。いきなり切り換へることは正しい形が失はれる危険があるので、これを役所がある程度まで持つて行つて、漸次切り換へてゆく方法が妥當かも知れない。然し一面奉公運動が第三年目に入り、且決戦段階にあることは目下考慮中の地方事務局に思ひ切つて民間人を使ふ必要に迫られてゐるのではないか、奉公會將來の人事に於いても、熱意の無い者は起用すべきではない。

○………青年練成の内容方法を改めなければならぬ。その部落々に即した、もつと具體的な練成をすべきである。地方々々で行はれる青年練成の内容は抽象的に墮する嫌ひがある。今回視て廻つた部落でもその良し悪しは青年の熱意如何にあることが明らかに看取された。青年層の練成に於いては、その地方に、その部落に即しつと具體的に、如何に部落を善導し、改良するかを教へ、他部落がどんな方法でどんな成績を挙げたかなど、箇々の場合について示してやるべきだと考へる。前述した通り、今後の奉公運動は青年層の實踐力に依つて多大であるからである。青年層は緊張感や感激を欲してゐる。宜しくこれに責任を持たせてゆくべきである。これはやつてゐる處もあるが、青年練成の折部落の師、益師も指導して、男女青年がその中心となればうまくゆくであらう。

○………盆踊り、豊年踊りなど、部落の祭りの行事として固定化させ、これを大いに活用すべきではないか。これについては最も強調された。藝能といひ、健全娛樂といふも、出来たものを見せせてやると云つたものと、大衆が自然に溶け込んで出来るものを較べて、後者の特徴を充分に活かすべきである。集團的組合の氣持を醸成させる上に此のやり方は大切である。かうした踊りで部落の老幼男女を集め、然る後傳達事項を傳へるなり、箇々の區、奉公班の常會に移るのも一方法であらう。兎に角老若自然に踊りの中に入るその盛上る氣持、右手を上げる時は一齊に右手を、左手を上げる時は一齊に左手を、この二つは奉公運動の骨であり、踊りに示された此の機微を掴んで活かすことは、洵に當を得た良い方法である。

喋るな迷ふな手に乗るな

用使又必二供子タレ皆

ズラシセア

びら知せあ

一第洋東

にり巨陽しバタモセア

東京 店商田徳 總本



防諜は民一億の戦陣訓

工作には有機的な連関を

部落運営會を視て 一 中

臺北 中井教授視察談

臺中州支部に於ては、先づ各部落の幹部を養成し、本年度部落運営の重點を明かにしたが、更に部落の實情に照らし具體的實行方針を立てるため、五月二十五日、前年度の一等入賞部落たる員林郡大村庄實業部落に於て「優良部落運営研究會」を開催し多大の成果を収めた。

當日の會場たる實業部落を視ての感想は、實によくやつてゐる模範部落だと云ふことに盡きる。訓練も立派であつた、これだけに、指導者の異常な努力と、相當の年月がかつてゐるであらうと思はれた。しかしこれはあくまでも模範であつて、普通の部落の者はこの様な努力を以てしてやれないであらう。所謂模範部落と云ふものの一つの性格が實業部落によく出てゐる様に思つた。要はただ単に見せるための部落に終つただけでは意味がないのであつて、この點に對して充分氣をつけることが大切ではなからうかと思ふ。

各部落の本年度實行計畫の發表は、その内容は非常に高度の報告であり、立派であると思つた。滿洲の協和會の聯合協議會などに比して、意識の程

度も高いし、問題の核心も掴んでゐた。殊に奉公會州支部當局が、發表事項をあらかじめ八項目に分類してゐたのは、發表を容易にする、いいやり方である。

問題は大きく分けて貯蓄と堆肥増産のことについて、特に重點が注がれてゐるが、どの部落も實によくやつてゐた。しかし何か非常に能動的でない要素が強い様に感じられたのは、これは奉公運動がまだ奉公行政から何歩も出てゐないことを示す一つの現はれではないか。

東石郡下布袋部落その他の謂りは視察中隨一の收穫であつた。

○……………その他

奉公運動は既に根が着いた。枝葉を張り花實を結ぶのは今後の努力如何である。奉公運動の最大の極みといへば國語常用の問題であらう。國語が巧く語れない爲、折角の會が齒に衣を着せ、た感じを免れない。

次に悩むとする處は都會地の常會に理論の多いことである。要する奉公運動は實踐である。その點川舎は良き指導者へあれば變らに實踐する。高雄の祭文部落の如きその良い例であらう。都會でも臺中の奉公班の共同聯合は班内の人々を和合させる紐帶として良い方法だと思はれた。婦人の奉公運動では東勢の婦人部が断然目立つてゐた。新竹の國語講習所では雅申など持ち出して、その名前から、使ひ方など、生活の實際に

づつ覺える様にさせてゐた。又龍高郡大肚城部落では特に婦人に重點を注いだ國語常用運動を計畫してゐたが、これなど現實をよく見た目のつけどころであると思つた。

國民貯蓄の問題を生活改善と結びつけてゐるのは、一般的に見られ、まことに適切だと思つたが、更に大屯郡蘇厝埔部落では、この問題を共同貯蓄とか在來の道土を耕して製式け全ての式による指導指導するとか計畫してゐた、これなど實際の現實に對してよく取組んでゐると云ふ感服がした。なほやはり指導者の意識が現實にくらべてあまりに飛躍的にならない様に心掛けることが大切であらう。

まで農民奉公運動をもつて來られた州支部長以下州奉公會幹部の方々の非常な努力に對しては深い敬意を捧げたいと思ふ。基本的な問題については切れない様なところにあるのではないかと云ふ感服が深かつた。従つて運動の重點は、見えないところへ注がらねばならぬ。この上だけで行かぬ。

即して教へてゐるのは良い方法である。

部落といふのが視せる爲の部落となるのは危険であるが、奉公運動は常に良い處、長所を抱へてそれを助長する様に導き、一面指導者として香しくない部落に力を入れて全體の水準を一にするのもまた焦眉の急であらう。

その他堆肥の増産に對する官民の熱意や硬貨回収に見せた國民の意氣など、皆が敬服したものである。

國語常用問題は終始奉公運動の根本問題として取り上げられてゐた。文教方面で行つて來た國語講習所と、奉公會方面で行つてゐる農民塾乃至國語報國所その他、その二者の時期と、國語普及政策の實際責任者の面を此の際明らかにし、實際責任者が充分の費用を使つて積極的に、統一的に乗り出す時期に達してゐると考へられる。

國民貯蓄の問題は單に生活の切下けのみでは困難であらう。増産あるひは副業獎勵等によつてこれを生み出して行かなければならぬ。貯蓄のよくなるのは、まことにこれを運ぶきしてゐるものと云つてもよからう。従つて農村に於ては貯蓄と増産とを、別個な取上げ方をしたのでは、工作は圓滑に行かぬ。

要するに研究會に出席しての全體的印象は、非常に高く、立派だと云ふことである。

國民貯蓄の問題を生活改善と結びつけてゐるのは、一般的に見られ、まことに適切だと思つたが、更に大屯郡蘇厝埔部落では、この問題を共同貯蓄とか在來の道土を耕して製式け全ての式による指導指導するとか計畫してゐた、これなど實際の現實に對してよく取組んでゐると云ふ感服がした。なほやはり指導者の意識が現實にくらべてあまりに飛躍的にならない様に心掛けることが大切であらう。

しかしながら農村に於ては、貯蓄の問題は單に生活の切下けのみでは困難であらう。増産あるひは副業獎勵等によつてこれを生み出して行かなければならぬ。貯蓄のよくなるのは、まことにこれを運ぶきしてゐるものと云つてもよからう。従つて農村に於ては貯蓄と増産とを、別個な取上げ方をしたのでは、工作は圓滑に行かぬ。

要するに研究會に出席しての全體的印象は、非常に高く、立派だと云ふことである。

片岡鐵 兵著	山河一望	二〇〇
大東亞運動會の女性生活、男への問題を切實に描いてゐる青年小説。		
シラノベジニ著 井野康彦譯	或る男の幸福	二〇〇
留學の経験から「男」を思はせる小説。		
熱帯の生活事典	三・六〇	
熱帯の生活文化の知識を衣食住に亘り詳述する。		
片岡鐵 兵著	美しい園志	二〇〇
美しい園志を助ける傑作。		
片岡鐵 兵著	沈黙の薔薇	二〇〇
國語と美しい園志を助ける傑作。		
片岡鐵 兵著	消ゆる樂譜	二〇〇
目録めくると若人の新生活を描く。		
片岡鐵 兵著	東京の暦	二〇〇
東京の生活と愛の物語。		
片岡鐵 兵著	花模	二〇〇
愛の心理を多岐にわたる。		
片岡鐵 兵著	女の一生	二〇〇
女の非情に現代の愛の物語を描く。		
片岡鐵 兵著	美しい秩序	二〇〇
愛と精神の衝突を描く。		
片岡鐵 兵著	知られざる軍隊	二〇〇
知られざる軍隊の内幕を描く。		

連載
古事記物語
喜久元八郎
系宮田晴光

雉名鳴女

天照大神の御言葉で、
「葦原の千秋の長五百秋
の水穂の國は、我が御子の
正勝吾勝速日天の忍穂耳
の命の、治められるべき國
である。」
と仰せられて、高天の原
から天の忍穂耳の命をお降
しになりました。
そこで天の忍穂耳の命は

考へさせて仰せられますの
には、
「この葦原の中つ國は、我
が御子の治められるべき國
と定めた國である。然るに
この國に亂暴な國つ神が多
くあると思はれるが、どの
神を遣してこれを平定すべ
きであらうか。」
と仰せられました。そこ
で思金の神及び多くの神達
が相談して、
「天の善比の神を遣つたな
らばよろしいでございませ
う。」
と申し上げました。そこ
で天の善比の神を遣しまし
たところ、この神はやがて
大國主の神に詔ひ著いて、
御役目を果さず三年たつて
もお返事を申し上げません
でした。

の善比の神は久しく御返事
を申さないが、またどの神
を遣つたならば吉いだらう
か。
と仰せになりました。そ
こで思金の神が答へて申し
上げますのに、
「天津國玉の神の子の天若
日子を遣りませう。」
と申しました。さういふ
わけで立派な弓矢を天若日
子に賜つて遣しました。と
ころが天若日子はその國に
降りついて、そこで大國主
の神の女の下照姫を妻とし
またその國を自分のものに
しようと思つて、何年経つ
ても御返事を申し上げませ
んでした。

務を怠り、久しく留つてゐ
る理由を尋ねさせようか。」
と仰せられました。そこ
で大勢の神達及び思金の神
が答へて申し上げますのに
「雉名鳴女を遣りませう。」
と申します時に、その雉
を召されて仰せられますに
「お前が行つて天若日子に
尋ねる時には、そなたを葦
原の中つ國に遣した神は、
その國の亂暴な神達を歸順
平定せよといふ爲です。ど
うして八年になるまで御返
事申し上げないのか、と問
ひ詰めてよ。」
と仰せられました。

さういふわけで雉の名鳴
女は天から降つて来て、天
若日子の家の門にある大き
な柱の木の間に居て、詳し
く天つ神の仰せの通りに言
ひました。こゝに天若日子
の侍女で天の探女といふ女
が来て、この雉の言ふこと
を聞いて天若日子に、

「この鳥は不吉な鳴き方を
しますから、これを射殺し
ておしまひなさい。」
と勸められたから、そこ
で天若日子は、かの天つ神
の賜つた立派な弓矢をもつ
て、その雉を射殺してしま
ひました。ところがその矢
は雉の胸から通り抜けて逆
様に射上げられて、天の安
の河原においでになる、天
照大神と高御産靈の神の
御許に飛んで参りました。
そこで高御産靈の神がその
矢を取つて御覧になると、
その矢の羽に血がついてを
りました。こゝで高御産靈
の神は、
「この矢は天若日子に與へ
た矢である。」
と仰せになつて、大勢の
神達に見せて仰せになりま
したのには、
「若し天若日子が命令を違
へず、亂暴な神を射た矢が
飛んで来たのならば、天若
日子に中らないやうに。」

うでなくて若し不届きな心
があるならば、天若日子は
この矢で死んでしまへ。」
と仰せになつて、その矢
をお取りになつて、その矢
の飛んで来た天の穴から衝
き返して
お下
りしま
した。
たか
ら、天
若日子
が朝床
に寝て
ゐる胸
の上に
當つて
死にま
した。
かうし
て雉は
永遠に
還つて
参りま
せんから今
でも、誰
にも、
「行つた
きりの
雉のお使
い」とい
ふので、
それで天
若日子の
妻下照
姫が悲し
んで泣く
聲が、風

のまに／＼響いて天に到り
ました。そこで天にをられ
る天若日子の父の天津國玉
の神、また天若日子の元の
妻子達が聞いて、天から降
つて来て泣き悲しんで、そ



泣き女として、斯様にそれ
／＼の分辯を定め、八日八
夜といふもの遊んで死者を
慰めました。
國譲り
斯様な次第で、
天若日子もまた
駄目だったので
そこで天照大神
の神の仰せになる
のには、
「またどの神を
使ひしたら吉か
らうか。」
と仰せになり
ました。かの思
金の神及び大勢
の神達の申され
るのには、
「天の安の河の
河上の天の石屋
においでになる天の尾羽張
の神をお遣しになるが宜し
うございませう若しまたこ
の神でなければその神の子
の建御雷の神を遣すべきで

せう。尾羽張の神は天の安
の河の水を逆様に塞ぎあげ
て道を塞いでをりますか
ら、他の神では行かれます
まい。これは特に天の迦久
の神を遣して、尾羽張の神
に尋ねさせるが宜しうござ
いませう。」
と申し上げました。
さういふわけで天の迦久
の神を使はして、天の尾羽
張の神に問はせました時に
「恐れ多いことですが、誰ん
でお仕へ申し上げませう。
然しながら、その御役目に
は私の子の建御雷の神を遣
しませう。」
と申して建御雷の神を奉
りました。そこで天の鳥船
の神を建御雷の神に副へて
下界へお遣しになりました

依つてこの御一方の神は
出雲の國の伊佐那の小濱に
降りついて、長剣を抜き放
つて、浪の上に逆様に刺し
立て、その劍のきつさき

暮の経済学

本島米買入 価格引上げ

米價が高いから増産し、安いから之を作らないといふやうなものは、皇國農民の中に唯の一人も無く、誰もが増産に挺身してゐる。これは申すまでもありません。併し、農民は斯様な信念を持つてゐても、努力や他の諸物價の關係で生産費の値上りについては、政府も十分考へねばならないといふ親心を以て、内地産米は遂にその買入價格の引上げを發表しました。そこで我が臺灣でも之に準據して、石當り二圓八十錢の外生産者の自家保有米を除きたるものに對し七圓二十錢の補給金と、合せて買入上十圓の

恐るべき インフレ

増加した収入を直ぐその全部を消費生活に廻す時、そこに必ず起るものはインフレの現象であります。云ふ迄も無くインフレとはインフレーションの略語であり、物價が無暗に騰つて國民の生活が金額の上で不當に膨脹することを申しますが、戦争は第一線に連戦連勝しても、悪性のインフレが起ると、之がためにも敗れることがあるのです。第一次大戦の時に獨逸が敗れたのは、このインフレが起つて國內の戦時態勢が崩れたからでもありません。いま農民に米一石當り十圓宛収入が加りました。その結果二十五石を作る農民は二百圓の収入増加となります。そこで、この二百圓を全く個分の収入と

食糧増産の挺身奉公

して全部貯蓄すれば何のことも無いのですが、要りもせぬ着物を買ふとか、或は又享樂の方面に之を消費するとか致しますと、その方面の物資に需給の均衡が破れて物價高を來し、それが電波の傳はるやうに忽ち全面的となつてインフレが起り、總ては農民自身の首も締めつけるやうな結果となるのです。だから、かうした収入が増加した時には、費はうとするよりもその儘貯めようとするのが何よりも大切であつて、殊に今迄農村からインフレが起つた例が無いのに、今度だけはといふことになる、皇國農民として未だまでの恥辱となり、生活を引締めるといふことの必要は、實に収入の増加した時にあるといふことをよく知つて置かませう。

企業整備の 促進

收量は遙かに増加しましたが、また内地に較べては餘く、二回作ら内地の一回分より稍々多い程度です。故に、之は内地の二回分丈には餘りも收量をおけるやうにすべきであり、更に米は熱帯性の植物ですから、内地よりも氣候の上で臺灣に適したものであるとして、内地の二回分以上の收量をおかねばなりません。然らば、臺灣の米作がなぜ斯様なところに徘徊してゐるかといふと、まだまだ内地程に集約農業が進んでゐないからです。粗放農業の形態から完全に脱けて居らない證據なのです。之では臺灣農民の使命を全うして居るとは申せません。又、將來も分である南方農民を指導する資格を備へて居ることも云ふことは出来ません。

今度開かれた臨時議會の課題は、前に述べた食糧増産と企業整備とがその中心となつてゐましたが、この企業整備の問題の中、一般國民に直接最も關係のあるものは「中小商工業の整理再編成」であります。大體今迄の我國内情勢としては、中小商工業者の数が餘りに多過ぎ、互に不必要な苦しい競争を續けて参りましたが、早晩之は何とかせねばならぬものであります。處が昨今商業の如きは漸次配給となり、新たな配給機構が整備されて來ると、當然数の多過ぎる之等の業者は整理されねばならず、又整理されれば全體

として成立たなくなり、第二の儘に放任して置いたので、そこに混亂が起り、又業者個々のものに前途を謀るものが生じます。又政府としては之を積極的指導し、併せて整理されたものを國家の要請する産業に振り向け、以て當面の戦力増強に資するとともに、次のより良き時代の礎を築いて置く、といふのが企業整備の重要な狙ひの一つなのです。

ところが、之を整理される方から見れば、親戚代りの商業もあり、又粒々辛苦の揚句漸く立派にした店もあるで、それぞれ相當の執着があつて思ひ切つた態度に出られないのが人情の當ですが、國家の大局から考へれば又個々の業者の前途を考へると、決して遠慮してはならぬのであります。殊に、國家はいま第一

に戦力増強の上から、第二に大東亞共榮圈建設の上から、幾らでも人を求めて居るので、直に之に應ずることが國民としての務めであるにせざるを得ません。又斯様な時代の大きな轉換に際しては國民生業の轉換も必ずでありまして、この生業の轉換を圓滑に行はなかつたならば、次のより良き時代は建設されないのです。明治維新の大轉換時代にも、國內人口三千万人のうち五十萬、平均家族五人として二百五十萬と全人口の一割近い武士階級が全然失業したのを始めとして、武器屋、襦袢屋、丁髷屋等結つてゐた髮結業等夥しき数の失業者を出しましたが、之等吾々の先輩は左迄政府の厄介にもならず、自主獨立をこれぞの前途を切り拓き、總て鉤欄たる明治の文化を建設して行つたのであります。

大久保金藏

△五月十七日、東京、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月十八日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月十九日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十一日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十二日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十三日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十四日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十五日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十六日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十七日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十八日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十九日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月三十日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

それを思ふ時に、いま吾國民は從に過去の生業に女々しい執着を持つべきで無く、自ら進んでその轉換を圖り、以て政府の政策に協力すべきであつて、これには何よりも個々の中小商工業の心の「斷」が肝要であります。斯くして未嘗有の非常時下に於ける企業の整備を促進して行かうではありませんか。

△五月十七日、東京、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月十八日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月十九日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

△五月二十一日、山本元帥の喪に當つた。天動員、内地警備隊、要員を下して全國民衆の哀悼を發行、國益を同様の結果を、めむことを、山本元帥の喪に當つた。

看護助手の手記

硝煙の匂ひが消えやらぬ新生香港に、選ばれた本島女性たちが、晴れの看護助手として待たされて早くも一年、一名の事故もなく、無事任務を終り去る五月二十三日、再び故郷の土を踏んだ。征途の半ば、無念な手負った皇軍將士の看護に費した彼女たちが、僅か一年の病院勤務とは云へ、その間に思ふだものは多かつた。こゝにわれは決然と立ち上つた若い本島女性たちのくまひ息吹を感じずとも共に、彼女たちのこの貴重な闘いがやがて戦場に隣りに、あるは家庭生活に活かされ、奉公運動の大きな推進力となることを思ふとき、青年の力によつて燃え上る運命の明るい前途を説くにはあられもないのである。

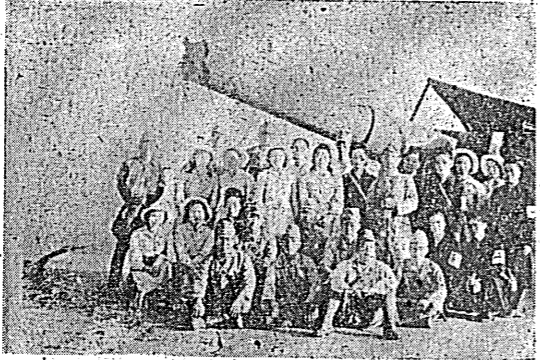
靖國の櫻に寄せて

一 勇士の最期
吳氏 婦 娥

「如何でございませぬか」
意識の消滅した、微しい愛語

「おつかれさまでございませぬ。」
口々にねぎらひの言葉を掛け、
退屈なさつた。短かい言葉の中
には、何も言はなくても通ずる
相互の気持が有つた。どうにか
して生かして上げたい。再び雨
の驟風の華と咲かして上げたい
のが皆の心であつた。私は電燈
のスイッチを捻つて、ピタカン
フアーを命令通り握り締めた。男
士の胸に注射したのである。
「お口が乾くでせう。これ飲み
ませうね。おいしいのですよ。」
果汁を徐々に口角つたひにふ
そと眼やにをぬぐつて上げ
た。鏡でこしらへた襟袂の毛
皮を静かにまくつて、浮腫した
足から防水布を解つて、間断なく
流れる悪臭の強い水をガーゼで
ふき、乾燥させて湯タンギを入
れた。後で温かいタオルで足を
軟くもほぐしながら、「どうで
すか。少し氣持よくおなりにな
りまして」とときと、ほとんど
表情も浮ばない勇士の顔に、眼
だけがうれしうな光りをた、
へてみた。少し熱になつて下さ
つたかと、ホッと肩が軽くとなつ
たやうな晴々しい氣持である。

「欲しい物が有れば、なんでも
送附なくおつしやつて下さい
ね」
ほとんど無欲状態に近い顔を見ながら、まだ私達を困らせて
下さる中が、容態も開合よく、
それだけに、困りながらハイハ
イとうれしうに君臨して上げ
られるのだつた。苦痛の激しい
時には、自分がその苦しみに變
つて上げられたらと、骨身をけ
づられるやうな焦燥を感じるの
だつた。片手でやせへた患者
の脈を握り、片手で君臨目録の
ペンを走らせながら、そつと第
六感で見守るのだつた。
薄暮の中に、銀色に光つてゐ
た赤の海も、かすかな沙管を露
しながらもやの中へ沈んでい
た。唯神台ひ通かに踏々とまた
たく漁火がわびわびあつた。
患者は病の爲意識せず、大
小便を出しつ放しにするのであ
つた。永い病床生活で、筋肉は
たゞれ骨がつかさ出で、化膿しか
けた痔すれの腫は、動かす度に
其の苦痛は、私達健康な人間の
精神では到底想像もつかない苦
痛であつた。重症患者の苦痛を
自分の苦しみにして、そこから
生まれる細心の看護こそ、真に



勇士が欲する幾分かの用を足
せるわけである。白衣をぬらす
汗と、大小便にまみれて、苦痛
の中にもうめく病人の聲に浸つた
徹夜の経験も、私にはすべて尊
いものであつた。経過は頗る良
好で、折れた頭には、白膿に
反射する時の刻みが夜つびてき
こえてくるのだつた。日直士官
殿は度々診察に来られ、細々と
した注意を残してゆかれるので

あつた。元氣な中は、済ませ
ん済ませせん御迷惑ばかりか
けますなあ」とおつしやつてあ
た患者も、救い上げな顔で「日本
の士を一度踏みたいなあ」とひた
すらに祖國を戀ふのであつた。
「俺にもお母さんか有つたらな
あ」
ぼつりと「百圓つた患者の言
葉に、私はお慰めの聲も出ず、
釘づけになつてしまつた。なに
かじんと心に
しみる悲しさが
こみ上げて来る
のだつた。しか
し一度陽光を示
した容態も、消
えんとする生命
の一瞬のまた、
きであつた。遂
に職方も待たな
いで、はゝあみ
さへたゝへた最
後であつた。五
十の注射も、ピ
カカも、薬も、す
べきをつくした
跡だけがわびし
げに残つて居
た。シャイネス

「日本の母の涙も、あらゆる苦
難にみちた道も、戦争と言ふ大
きな渦巻の中に淨化されて、唯
目的完遂の爲に火の弾丸となつ
てゐる。
愛する女は
此の上にもわか
限り有る身のため
この歌を讀むにつけ、大きな
信念にもつき、戦争の渦の中
に盛岡女性の眞の生へべき道を
拓くべく進んで身を挺した私達
の前には、餘りにも幾多の崇高
な徳が、日本人の自覚を最高
度に呼び覚ましてくれたのである
病床に病む白衣の勇士が、ひた
すらに懸ふ偉大な祖國にも、
私けいも夢をさせた心で一
杯なのだ。南の戦場で、北の戦
場で、祖國と母の名を呼びつゝ、
けて散る勇士の心も、私達には、
餘りに切實な實感としてよみが
(看護士看護助手見聞の一行

感傷を乗越えて

陳氏 秋子
されてゐた私達、常に自分の一

家庭の頁

御存知ですか？

婦人標準服の活動衣

―防空用に好適―

いよいよ決戦期に入り、国民の心構へも一層引締つて来るにつれ、婦人の活動衣が問題視され、モンペ常用服も高唱されて居るやうですが、厚生省に於ては今日に備へて、既に大東亞開戦當初新界の権威者によつて創案された婦人の活動衣を、婦人標準服の甲型、乙型と共に公表されました。



甲型活動衣

また當皇民奉公會に於きましても、昨秋島内各地に開催された生活科學展覽會にこれを陳列して、一般の参考に供したのでございまして、當時餘り一般大衆の方の注目を惹かなかつたことを残念に思つて居ります。それで未だ御存知ない方々の爲に、茲に改めて申上げて見ませう。



乙型活動衣

厚生省が示された活動衣は甲型と乙型の二種でありまして、甲型は洋服を着馴れた方々の爲に、乙型は和服を常用されて居る方々の爲に作られたもので、甲型、乙型共平常用の上衣に下衣だけを取替へ用ゐられるやうになつて居ります。

甲型の特長とする所は、上衣が平常用のものと同型であること、下衣は従来のモンペにズボンの長所を取り入れ、裁方、縫方を明解にし、格好よく若い方にも中年の方にも向くやうに出来て居り、また襟口の開閉が自由となつて居る點等です。

乙型の特長は上衣の袖口を縮めて働きよくなつて居り、平常用共通に用ゐるべく、挿袖のやうに全體が

和服裁ですから、袖口が縮めてありまして平常用として異様な感じもなく、誰にも似合ひませう。下衣は従来のモンペに改良を加へ仕立易く、着易く工夫され、腰紐のやうに幅が狭くなつて居りますので、中に帯をしめなくてもだらしない感じもなく體裁もよく締りもありません。

尚、此活動衣は、次のやうな點に充分な考慮が拂はれて考案されたものです。

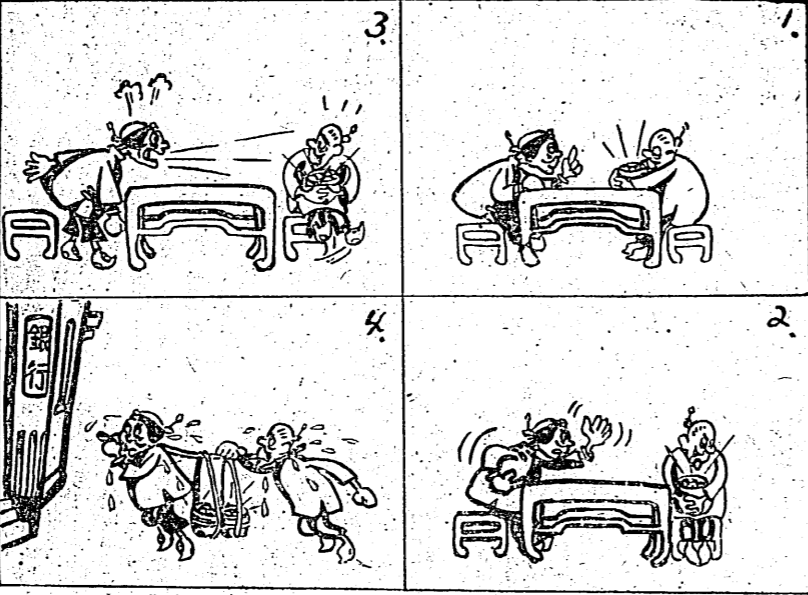
食糧貯藏種々

―空襲に備へて―

〔干飯〕 お飯やお釜に炊いた御飯は洗つた時に捨てずに、それをまとめて干飯を作つて貯へませう。干飯は昔は兵糧として重要されました。御飯を皿にのせて、沸騰中の湯沸しの蓋を取りのけた上にて置きませうと、直に乾いてバラバラになります。之をフリキの空桶に貯

硬貨貸出の巻 (洪朝明畫)

愛國婆さん



へて置けば、何時でも取出してお湯をかけて軟かにして食べることが出来ます。又、子供のやおやつにけしめて砂糖をまぶしていたく水が出来ます。それからお茶を生のまゝよくいつて粉末にしておきますと、いざといふ時熱湯をそそぎ置、又は砂糖を加へて頂けます。又、お粥を、お粥し金ですつて水に通し、上澄を捨て、沈澱した澱粉を乾燥させて取つておきますと、やはり非常の場合御飯の代りに湯湯にして空襲をいやすといふ事も出来ませう。

〔大根葉、ほうれん草の干葉〕 大根の葉などはとかく無用視して、葉先の香味の(タミン)の多い部分を切り捨てて貯へて置けば漬物の少ない時季に水につけ軟かにもして、味噌汁の實に、煮物に、和へ物に使はれて便利でございます。葉をきれいに洗ひます。次に熱湯の中に二、三秒置きます(ふかして鹽水に浸してもかまひませぬ)。次に開窓の風通しのよい所に干して乾しませう。生乾きの箇所があるところがつきまますから注意を要します。

下痢に
吸着療法剤

アドソルビオン

純良
藥品

急性慢性腸カタル、腸チフス、赤痢様疾患、食餌中毒、小兒下痢、腸結核、吐瀉症等の下痢諸症に適用せらる

東京・昭和 三 共 株 式 會 社

十八年度の
本島目標額 **四億圓**
完遂へ

徴兵保険の元祖

第一徴兵

支部 台北市京町四ノ一

徴兵保険で国民貯蓄!

昭和十八年度第一回（第一巻第七號） 毎月一回一日發行 ①部十五錢

化膿症

テラポラ錠

創傷 膿瘍 丹毒 腫毒 疔瘡 癰疽 中耳炎 扁桃腺炎 副鼻腔炎

◎内服により深く病巣に透達し、各種化膿菌の発育を阻止して病状の悪化を防ぎつゝ最も短期間に治癒せしむる高純度の「第一」スルフォニルアミド州①その効果は多数醫家の實驗報告により立證せらる

東京 第一製藥株式會社

東京 第一製藥株式會社

A-77

